

(別表 4)

看護学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤									
生物学	30						1	30	
教育学	15						1	15	
情報科学	30						1	30	
統計学	30						1	30	
化学	15						1	15	
人間と生活, 社会の理解									
人間関係論	30						1	30	
カウンセリング	30						1	30	
社会学	15						1	15	
家族論	30						1	30	
倫理学	15						1	15	
医学英語			30				1	30	
英会話	30						1	30	
芸術	30						1	30	
体育		30					1	30	
小計	300	30	30	0	0	0	14	360	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能									
解剖学	30						1	30	
生理学	30						1	30	
生化学		30					1	30	
栄養学Ⅰ	15						1	15	
栄養学Ⅱ		15					1	15	
疾病の成り立ちと回復の促進									
薬理学		30					1	30	
微生物学		30					1	30	
病理学		30					2	30	
病態生理学Ⅰ（循環器）		15					1	15	
病態生理学Ⅱ（呼吸器・脳神経）		30					1	30	
病態生理学Ⅲ（消化器・泌尿器・血液・造血器）		30					1	30	
病態生理学Ⅳ（代謝・内分泌・運動器・免疫・アレルギー）		30					1	30	
病態生理学Ⅴ（婦人科・感染症・眼科・歯科・皮膚科・耳鼻科）		30					1	30	
病態生理学Ⅵ小児		15					1	15	
病態生理学Ⅶ精神		15					1	15	
健康支援と社会保障制度									
医療概論	15						1	15	
公衆衛生学			30				1	30	
社会福祉論			30				1	30	
関係法規			30				2	30	
リハビリテーション論			30				1	30	
小計	90	300	120	0	0	0	22	510	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の概念	30						1	30	
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術Ⅳ		30					1	30	◎
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
基礎看護技術演習Ⅱ		45					1	45	◎
臨床看護推論				15			1	15	
臨床看護総論		30					1	30	
看護研究			30				1	30	◎
看護研究演習						15	1	15	◎
地域・在宅看護論									
地域看護論			15				1	15	
地域看護方法論				15			1	15	
在宅看護概論			15				1	15	
在宅看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
在宅看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
在宅看護方法論Ⅱ				15			1	15	
成人看護学									
成人看護学概論		15					1	15	◎
成人看護方法論Ⅰ（急性期）			30				1	30	◎
成人看護方法論Ⅱ回復期（セルフケアの再獲得）				30			1	30	◎
成人看護方法論Ⅲ回復期（セルフマネジメント）			30				1	30	
成人看護方法論Ⅳ（慢性期）				15			1	15	
成人看護方法論Ⅴ（ターミナルケア）				15			1	15	
老年看護学									
老年看護学概論		15					1	15	◎
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
老年看護方法論Ⅱ				15			1	15	
小児看護学									
小児看護学概論		15					1	15	
小児看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
小児看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
小児看護方法論Ⅱ				15			1	15	
母性看護学									
母性看護学概論		30					1	30	
母性看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
精神看護学									
精神看護学概論		30					1	30	
精神看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
精神看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
精神看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
看護の統合と実践									
医療安全管理				30			1	30	
チーム医療論			30				1	30	
国際看護			15				1	15	
災害看護				30			1	30	
看護管理				15			1	15	
小計	135	240	345	390	0	15	45	1125	

臨地実習

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
基礎看護学実習Ⅰ		40					1	40	
基礎看護学実習Ⅱ				80			2	80	
地域・在宅看護論実習						80	2	80	
成人看護学実習Ⅰ					40		1	40	
成人看護学実習Ⅱ					80		2	80	
成人・老年看護学実習					120		3	120	
老年看護学									
老年看護学実習					120		3	120	
小児看護学									
小児看護学実習					80		2	80	
母性看護学									
母性看護学実習					80		2	80	
精神看護学									
精神看護学実習						80	2	80	
看護の統合と実践									
看護の統合と実践実習						120	3	120	
小計	0	40	0	80	520	280	23	920	

総計	525	610	495	470	520	295	104	2915	
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	--

	1年	2年	3年	総合計
時間数	1135	965	815	2915
単位数	44	39	21	104

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

生物学/生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「生命（いのち）の大切さ」を認識し、弱者（患者）に寄り添える自己形成を目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生命の誕生・進化、ヒトの誕生（序章・第1章・第8章）	講義	
第2回	細胞の基本構造と機能（第1・2章）	講義	
第3回	酸素呼吸・エネルギー（ATP）合成（第2章）	講義	
第4回	同化・異化、消化酵素（第1・2章）	講義	
第5回	エネルギー（ATP）の利用（筋収縮・能動輸送・発光）（第7章）	講義	
第6回	神経系（感覚・運動・中枢）の構造と機能、神経情報伝達（第7章）	講義	
第7回	生体の恒常性、内分泌系（ホルモン）と自律神経系（第6章）	講義	
第8回	ほ乳動物の各臓器の構造と機能（第6章）	講義	
第9回	メンデル遺伝、ヒトの遺伝（血液型・色覚異常）（第4章）	講義	
第10回	細胞分裂、生殖/発生のしくみ（第3・5章）	講義	
第11回	ハツカネズミの解剖 （呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系）	実習	
第12回	DNAの構造・DNA合成（DNAの半保存的複製）（第4章）	講義	
第13回	RNA合成（転写）、タンパク質合成（翻訳）（第4章）	講義	
第14回	生物学講義のまとめ	講義	
第15回	直前試験対策（30分）/終講試験（60分）	講義 /試験	

評価方法	☒ 定期試験（80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（中間テスト）（20%）
------	--

教科書	「系統看護学講座 基礎分野 生物学」（医学書院）
参考図書	(1) WEB 玉塾 「生物」・「解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ (2) 看護 roo 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

本授業では、医療従事者として必要な教育学の基礎的知識を身につける。

◇到達目標

1. 教育の理念と目的がわかる。 2. 患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	看護師にとっての教育学	講義	
第 2 回	学校・家庭・社会における教育	講義	
第 3 回	教育の組織化	講義	
第 4 回	発達と生涯学習	講義	
第 5 回	教育の担い手	講義	
第 6 回	キャリア教育	講義	
第 7 回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	
第 8 回	看護と教育のまとめ ・ 終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 50%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	木村元編『教育学』（系統看護学講座基礎分野）医学書院 2025 年
参考図書	なし
留意事項	事前学習：必要な場合は指示する。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
情報科学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標	パソコンと USB メモリの安全で正しい使い方をマスターさせ、日々の学習に使えるようにさせる。
授業概要	OS:Windows10 とアプリケーションソフト Office2013(Word Excel PowerPoint)を演習で学ばせ、パソコンを文房具として使えるようにさせる。

◇到達目標

到達目標	Word により文章が書け、Excle で予定表が作れ、さらにデータを表とグラフに整理でき、PowerPoint で発表原稿をスライドに出来るようになる。
------	---

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	パソコンの起動法と終了法について (電源の on-off)。学校のネットワークシステムの注意 (家庭用パソコンとの違い)。ソフトの起動と終了。アプリケーションの画面構成。リボンの仕組みと操作法の基本。	演習 (パソコン室)	
第 2 回	Word の起動。キーボードの文字の入力。ローマ字入力とかな入力。文字入力 (ひらがな カタカナ 無変換 漢字変換 記号 IME パッド)。文章入力。入力の訂正。再変換。ファイルのサーバー (個人のフォルダ) へ保存。	演習 (パソコン室)	
第 3 回	ページ設定。移動とコピー。文章の作成。基本的な文章の構成。右揃え 左揃え 中央揃え 文字のサイズ フォントグループのボタンの働き	演習 (パソコン室)	
第 4 回	表の挿入。表に文字入力。表の編集 (行・列の挿入と削除)。オンライン画像の挿入。図形の挿入。画像の編集 (文字列の折り返し、塗りつぶしなし、線なし、グループ化)。	演習 (パソコン室)	
第 5 回	Excle の起動。Sheet 画面の構成。データ入力の基礎。数字の全角と半角。日付・時刻の入力。オートフィル。日本語入力。	演習 (パソコン室)	
第 6 回	基本的なワークシート編集 (計算式の入力、演算子について、再計算)。2 乗とルートの計算。割り算と分数。表示形式の変更。	演習 (パソコン室)	
第 7 回	関数を使った計算式 (TODAY0、NOW0、SUM、AVERAGE 等)。小数点。相対参照と絶対参照。	演習 (パソコン室)	
第 8 回	罫線。行・列の編集 (挿入 削除 サイズ変更 着色 斜め線) 円グラフ作成。棒グラフ作成。	演習 (パソコン室)	
第 9 回	条件判定 (IF 関数の使い方 複合条件による判定)。分析ツール (乱数発生ヒストグラム作成)。	演習 (パソコン室)	
第 10 回	PowerPoint の起動。文字テキストの入力。新しいスライドの作成。レイアウトの変更。オンライン画像の挿入。図形の挿入。図形の編集。	演習 (パソコン室)	
第 11 回	アニメーションの基礎 (タイトル、テキスト、画像、図形に設定)。効果のオプション。Snipping Tool を使った画像の取り込み。	演習 (パソコン室)	
第 12 回	3 種類 (開始、強調、終了) のアニメーションの使い分け アニメーションウインドウの使い方 アニメーションの追加 アニメーションのタイミングの使い方 (開始 遅延 継続時間)	演習 (パソコン室)	
第 13 回	スライドの編集 (コピー 削除 移動)。デザインでテーマを選択 (すべてのスライドに適用 選択したスライドに適用の区別)。スライドショーの操作。	演習 (パソコン室)	
第 14 回	Word、Excle、PowerPoint 間でデータのコピーや共有。総復習。	演習 (パソコン室)	
第 15 回	終講試験【60 分】+まとめ【30 分】	試験・まとめ	

評価方法	□筆記試験 (%) ■実技試験 (100 %) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	--

教科書	30 時間でマスターOffice2013 実数出版
参考図書	特になし
留意事項	①USB メモリを用意する ②学校のパソコンの使い方注意 (サーバーまたは USB メモリに保存しないとデータが削除される。)

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
統計学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

教育目標 看護研究の基礎としての統計処理を学ばせる。 授業概要 保健医学領域において役に立つ統計学の基本的概念や考え方を理解し、看護研究に役立てられるようにする。

◇到達目標

到達目標 データのまとめ方とグラフの描き方、そして統計的推定と検定の考え方を理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	2つの統計学（記述統計、推測統計）	演習（パソコン室）	
第2回	データの集め方、データの種類（数量データ、カテゴリーデータ）	演習（パソコン室）	
第3回	無作為抽出法、コインの裏表、サイコロの目	演習（パソコン室）	
第4回	データのまとめ方、大きさ順に並べる、度数分布表	演習（パソコン室）	
第5回	グラフの作り方、ヒストグラム	演習（パソコン室）	
第6回	エクセルの計算、関数の使い方、基本統計量	演習（パソコン室）	
第7回	クロス集計表、 χ^2 値、期待値	演習（パソコン室）	
第8回	統計的仮説検定の考え方	演習（パソコン室）	
第9回	χ^2 検定	演習（パソコン室）	
第10回	正規分布と標準正規分布	演習（パソコン室）	
第11回	標本のデータ数と分布、t分布	演習（パソコン室）	
第12回	対応のあるt検定	演習（パソコン室）	
第13回	相関係数について	演習（パソコン室）	
第14回	平均値と比率の推定	演習（パソコン室）	
第15回	終講試験【60分】＋まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■筆記試験（100%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %） 筆記試験（与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。）
------	--

教科書	田村浩志・小島隆矢共著：マンガでわかるナースの統計学：オーム社
参考図書	
留意事項	筆記試験（与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。）

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
化 学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標 医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。 自然って？いのちって？身近な物質や現象をみつめる化学の、科学の眼差しを培う。 授業概要 人の正常な活動や疾病の理解をするため、身体を構成する物質とその反応を修得する。

◇到達目標

医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	化学知識の自己評価としてのショートテスト 化学の復習と講義概論	テスト 自己採点	
第 2 回	「紙が燃える」と「ヒトが生きている」ことの共通点を化学してみよう。 ビデオ「モデルで考える」	講義	
第 3 回	無機化合物と有機化合物、原子と分子の話 ビデオ「化学結合」	講義	
第 4 回	「水に溶ける」とは？水に溶けないものとの違いを考える 塩と酸とアルカリ（塩基）	講義	
第 5 回	栄養の化学を考える	講義	
第 6 回	からだの中の化学を考える ビデオ「高分子化合物」	講義	
第 7 回	まとめ	講義	
第 8 回	終講試験（まとめ、レポート発表会）	発表試験	

評価方法	☐ 筆記試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 70 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「食べられる」科学実験：尾嶋好美 著（サイエンス・アイ新書） 系統看護学講座．人体の構造と機能2 生化学（医学書院）
参考図書	斎藤勝治著 やさしくわかる化学のしくみ ナツメ社
留意事項	事前学習：高校の化学の教科書（文化系のものでもよい）程度は理解してきてほしい。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間関係をめぐる諸問題にアプローチする学問的基礎を学び、多様な人間関係を多角的に捉える視点を育成する。

◇到達目標

人間関係のトラブルが生じたときに、授業で学んだことを参考にして対応できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	エリクソンの人間発達論（1）・・・第 1 章のメインテーマ	講義	
第 2 回	エリクソンの人間発達論（2）	講義	
第 3 回	エリクソンの人間発達論（3）	講義	
第 4 回	第 2 章 対人関係と役割	講義	
第 5 回	第 3 章 態度と対人行動	講義	
第 6 回	第 4 章 集団と個人	講義	
第 7 回	第 5 章 コミュニケーション	講義	
第 8 回	第 6 章 カウンセリングと心理療法	講義	
第 9 回	第 7 章 コーチング	講義	
第 10 回	第 8 章 アサーティブ・コミュニケーション	講義	
第 11 回	第 9 章 保健医療チームの人間関係	講義	
第 12 回	第 10 章 患者を支える人間関係	講義	
第 13 回	第 11 章 家族を含めた人間関係	講義	
第 14 回	第 12 章 地域をつくる人間関係	講義	
第 15 回	終講試験【60 分】・まとめ【30 分】	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 別巻 14 基礎分野 人間関係論
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
カウンセリング	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

カウンセリングに関する講義と実習

◇到達目標

カウンセリングに関連する知識と態度の理解。傾聴の基本の習得。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス（カウンセリングって何だろう）	講義	
第2回	自分関係論	講義	
第3回	カウンセリングのルーツ	講義	
第4回	カウンセリングマインド	講義	
第5回	心理療法について（精神分析）	講義	
第6回	心理療法について（認知講堂療法）	講義	
第7回	傾聴について（人間性心理学）	講義	
第8回	積極的傾聴	講義	
第9回	傾聴学習と逐語記録の作成	講義	
第10回	EXP スケール・逐語記録の検討	講義	
第11回	困った患者さんへの対応（BPD）	講義	
第12回	自閉スペクトラムの理解	講義	
第13回	トラウマインフォームドケア	講義	
第14回	看護師のストレスリダクション	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「心のメッセージを聴く」池見陽著 講談社現代新書
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会学の基礎的な用語のひとつ、「人間」と「人間の関係」について、対面で講義をします。 私たちが経験している「出来ごと」についても、考察します。
--

◇到達目標

学生は、「私たちの日々の暮らしの中の「人間と人間の関係」を考え、学問のひとつの領域としての「日常」を認識します。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	社会学で学ぶこと 「日常」を理解する	講義	
第 2 回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第 3 回	研究方法としての調査	講義	
第 4 回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第 5 回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第 6 回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第 7 回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第 8 回	終講試験 (45 分)	試験	

評価方法	☒ 筆記試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業態度 20%)
------	---

教科書	「日常の社会学」(南園節教 著)
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、 演劇、映画、テレビ、読書 等の話題も・・・。
留意事項	テキストを読んでおく (予習 10 分) テキストのその日の量を読む (復習 10 分)

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
家族論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

現在家族の諸現象ライフタスク（人生で直面する課題）の諸問題の分析と対処を学ぶ

◇到達目標

患者やその家族への治療的アプローチ支援を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	資料から見る家族	講義	
第2回	家族看護とは	講義	
第3回	家族とは	講義	
第4回	家族の構造	講義	
第5回	子育てとアタッチメント	講義	
第6回	母性・父性論と母性愛	講義	
第7回	リラクゼーション	実習	講堂
第8回	家族システム論	講義	
第9回	家族看護の方法	講義	
第10回	家族アセスメント	講義	
第11回	傾聴とアサーションスキル	講義	
第12回	家族問題と社会資源・在宅ケア	講義	
第13回	家族支援アプローチ 1	講義	
第14回	家族支援アプローチ 2	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（％）
------	---

教科書	系統看護学講座「家族看護学」 医学書院
参考図書	その都度紹介します。
留意事項	事前学習：テキストを読んでおくこと

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

医療援助職に必要なコミュニケーション能力をケア論の観点から考察する。

◇到達目標

- 1.医療におけるケアの特徴を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- 2.ケアを仕事とすることに内在する困難を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション	講義	
第 2 回	ケアとキューア	講義	
第 3 回	生活の中のケア（１）ケアの根拠	講義	
第 4 回	生活の中のケア（２）「食べる」ことの意味	講義	
第 5 回	生活の中のケア（３）医療の外側でのケア	講義	
第 6 回	傾聴としてのケア	講義	
第 7 回	患者と患者の家族に対するケア	講義	
第 8 回	終講試験	試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（提出物 20%）
------	--

教科書	プリントを配布する。
参考図書	適宜指示する。
留意事項	私語厳禁。予習・復習を行うこと。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

研究・臨床のために、医学・看護学分野の英語文献を読むことができ、また医療現場において記録物の理解と外国人患者への対応ができるように、専門用語の習得、医学英語の読解力、ならびに医療現場を想定した英会話能力を養う。

◇到達目標

看護領域に必要な医学英語の基本を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション、Unit 1	演習	
第 2 回	Unit 2	演習	
第 3 回	Unit 3	演習	
第 4 回	Unit 4	演習	
第 5 回	Unit 5 & 6	演習	
第 6 回	Unit 7	演習	
第 7 回	Unit 8 & 9	演習	
第 8 回	Unit 10	演習	
第 9 回	Unit 11	演習	
第 10 回	Unit 12	演習	
第 11 回	Unit 13	演習	
第 12 回	Unit 14	演習	
第 13 回	Unit 15	演習	
第 14 回	Review	演習	
第 15 回	終講試験	試験	

評価方法	■筆記試験 (70 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (30 %)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	First Aid! English for Nursing (Akihiko Higuchi, John Tremarco、金星堂)
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

- Unit 1 First Visit to a Hospital
- Unit 2 How to Fill in a Registration Form
- Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities
- Unit 4 Mr. Brown's Symptoms
- Unit 5 Medical Checkup 1
- Unit 6 Medical Checkup 2
- Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis
- Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms
- Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms
- Unit 10 Explaining Blood Test Results
- Unit 11 How to Take Medicine
- Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy
- Unit 13 An MRI Test
- Unit 14 Recommending an Operation
- Unit 15 Post-operative Care

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
英会話	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

英語によるコミュニケーション能力を高める。専門用語の習得。

◇到達目標

様々なシーンで、英語を使って対応できるようにする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション・Unit1	演習	
第 2 回	Unit2	演習	
第 3 回	Unit3	演習	
第 4 回	Unit4	演習	
第 5 回	Unit5	演習	
第 6 回	Unit6	演習	
第 7 回	Review Unit1～Unit6	演習	
第 8 回	Unit7	演習	
第 9 回	Unit8	演習	
第 10 回	Unit9	演習	
第 11 回	Unit10	演習	
第 12 回	Unit11	演習	
第 13 回	Unit12	演習	
第 14 回	Review Unit7～12 ・ Preparation for test	演習	
第 15 回	終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
芸 術	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

絵本製作・美術史等について、実習・講義。時をともにする芸術の活用がコミュニケーションのツールとなること。医学と看護はサイエンスに基づいた「アート」であり、「技術」と「知識」そして「感性と人間性」の三つのアートであること。

◇到達目標

絵本製作と近代絵画の鑑賞等、「芸術」を通して心を通わせ、「創造性」を働かすための「豊かな感性」と「豊かな人間性」をあわせ持つ人材を育てること。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	・芸術と看護について…「心と体」のトータルケア ・「絵本製作」…テーマ・制作方法・製本	オリエンテーション 製作	
第 2 回	絵本製作 (2) …表紙をつけて製本。ストーリーを考える	製作	
第 3 回	絵本製作 (3) …ストーリーに沿って下絵の制作	製作	
第 4 回	絵本製作 (4) …製本の大きさで絵と文字を描く	製作	
第 5 回	絵本製作 (5) …製本に絵と文字を写し、彩色をする	製作	
第 6 回	絵本製作 (6) …製本に絵と文字を写し、彩色をする	製作	
第 7 回	絵本製作 (7) …表紙・背表紙を描き、完成する	製作	
第 8 回	絵本製作 (8) …プレゼンテーション	発表・鑑賞	
第 9 回	絵本作り (9) …プレゼンテーション	発表・鑑賞	
第 10 回	近代絵画の流れ (1) 古典派からロマン派へ アングル・ドラクロア	講義	
第 11 回	近代絵画の流れ (2) 自然主義と写実主義 ターナー・コロー・ミレー・ルソー	講義	
第 12 回	近代絵画の流れ (3) 印象派の誕生 マネ・モネ	講義	
第 13 回	近代絵画の流れ (4) 印象派の展開 ピカソ・シスレー・スーラ・ドガ他	講義	
第 14 回	近代絵画の流れ(5) 後期印象派 セザンヌ・ゴッホ・ゴーギャン	講義	
第 15 回	近代絵画の流れ(6)印象派以外の 19 世紀の画家たち(7)20 世紀の美術へ	講義	

評価方法	☐ 筆記試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (30%) ☒ その他 (作品提出・制作態度) (70%)
------	---

教科書	特になし
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
体 育	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

健康という概念をもとにスポーツ・レクリエーション活動を通して健全な心身の育成のあり方についての基礎知識とその実践を理解する。

◇到達目標

看護学生が医療現場で健康的に活動ができる体力づくりのための基礎と、日常生活へのスポーツ・レクリエーション活動への取り組み方を体得できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	人間と健康について	講義・演習	
第2回	あそびと体力づくりの関係について	講義・演習	
第3回	健康観とライフスタイルの点検	講義・演習	
第4回	代謝エネルギーと1日の必要運動量	講義・演習	
第5回	レク式体力チェック	講義・演習	
第6回	あいサポート運動（共生社会を目指して）	講義・演習	
第7回	レクリエーションダンス	講義・演習	
第8回	生涯スポーツとその実践1	講義・演習	
第9回	生涯スポーツとその実践2	講義・演習	
第10回	音楽とレクリエーション1	講義・演習	
第11回	音楽とレクリエーション2	講義・演習	
第12回	生涯スポーツとその実践3	講義・演習	
第13回	生涯スポーツとその実践4	講義・演習	
第14回	生涯スポーツとその実践5	講義・演習	
第15回	スポーツと健康についてまとめ・終講レポート	講義・試験	

評価方法	☐ 筆記試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 50%） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50%） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	必要時に資料提示・プリントの配布
参考図書	参考資料及び教材 運動の健康科学 レクリエーション概論 障害者スポーツの理論他 スポーツレクリエーションについて（ビデオ学習）
留意事項	事前学習：各自が運動に適した服装とシューズを準備すること 日々健康に留意し、ライフスタイルに健全な生活を心がける

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

ヒトの病態や機能を理解するには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須である。そういう意味で解剖学は看護学科の学生にとって最も重要な基礎科目のひとつであるといえる。解剖学では、人体を構成する骨格系と筋系、神経系、心臓・脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、感覚器系において、各器官がどの様に構築され、また、どのように機能と関連しているかを学習する。

◇到達目標

1. 基本的な解剖学の人体各部の名称を説明できる。
2. 各器官の機能を理解し、かつその連関を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	人体の構成と細胞、組織	講義	
第2回	人体の骨格 1～全体骨格、頭蓋、体幹	講義	
第3回	人体の骨格 2～上肢、下肢	講義	
第4回	筋学総論、筋学各論 1(頭部、頸部の筋)	講義	
第5回	筋学各論 2(上肢の筋、下肢、体幹)	講義	
第6回	神経総論、末梢神経系 1(脊髄神経系,脳神経系)	講義	
第7回	末梢神経系 2(自律神経系)、中枢神経系 1(脊髄・脳幹・小脳・大脳)	講義	
第8回	感覚器系の構造と機能	講義	
第9回	消化器系の構造と機能	講義	
第10回	呼吸器系の構造と機能	講義	
第11回	泌尿器系の構造と機能	講義	
第12回	内分泌系・リンパ系の構造と機能	講義	
第13回	循環器系の構造と機能	講義	
第14回	生殖器系の構造と機能	講義	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	☒ 筆記試験 (75 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (25 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) ナース・サブリ イメージできる解剖生理学 第2版 (メディカ出版)
参考図書	
留意事項	毎時間最後に、小テスト解答、サマリー、質問、感想などを提出する。予習しておくことが望ましい。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	澤井 元	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の生理機能（植物性機能と動物性機能）について、器官・組織・細胞・分子のレベルで理解し、疾病とその治療・ケアに関する専門科目を学習するための基礎知識を形成する。

◇到達目標

人体を構成する細胞、組織、器官系が果たす役割とその仕組みについて説明できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	序論	講義	
第 2 回	細胞の生理学	講義	
第 3 回	消化・吸収（1）	講義	
第 4 回	消化・吸収（2）	講義	
第 5 回	呼吸（1）	講義	
第 6 回	呼吸（2）	講義	
第 7 回	循環（1）	講義	
第 8 回	循環（2）	講義	
第 9 回	循環（3）、尿の生成と排出（1）	講義	
第 10 回	尿の生成と排出（2）、体液の恒常性	講義	
第 11 回	自律機能の神経性調節	講義	
第 12 回	自律機能の液性調節（内分泌）	講義	
第 13 回	運動	講義	
第 14 回	感覚	講義	
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（%）
------	--

教科書	「系統看護学講座 解剖生理学」 坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 医学書院
参考図書	ギャノン生理学原書 26 版 岡田泰伸, 佐久間康夫, 岡村康司（翻訳） 丸善出版
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生化学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

生体の恒常性の維持に必要な生体物質の構造と機能ならびにそれらの代謝に関する知識を習得し生化学的生命観を確立する。

◇到達目標

- 1) 生体構成基本物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の構造の理解
- 2) 生体の設計図である遺伝子の構造と遺伝子発現の理解
- 3) 生体の恒常性維持を支えている生体物質の代謝とその調節機構の理解
- 4) 遺伝情報とその発現や生体物質代謝とその調節の異常による疾患についての理解

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生化学を学ぶための基礎知識	講義	
第2回	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	
第3回	糖質の構造と機能	講義	
第4回	糖質代謝	講義	
第5回	脂質の構造と機能	講義	
第6回	脂質代謝	講義	
第7回	タンパク質の構造と機能	講義	
第8回	タンパク質代謝	講義	
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	
第10回	遺伝子と核酸	講義	
第11回	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	
第12回	転写	講義	
第13回	翻訳と翻訳後修飾	講義	
第14回	シグナル伝達・がん・生活習慣病	講義	
第15回	終講試験（60分）・解説（30分）	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験（ 75 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 25 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（授業態度 %）
教科書	系統看護学講座. 人体の構造と機能 [2]. 生化学
参考図書	
留意事項	1.テキストに目を通してから講義に臨むこと。 2.新型コロナの状況に応じ講義形態等に変更があることがあります。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学 I	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

食生活が生体の代謝に影響し、健康の保持・増進、疾病の改善に影響を及ぼす事を学び、栄養・食事に必要な基本的知識を修得する。

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要である事を認識できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	栄養学と看護	講義	
第 2 回	栄養素の種類とはたらき (1)	講義	
第 3 回	栄養素の種類とはたらき (2)	講義	
第 4 回	栄養素の消化・吸収・代謝	講義	
第 5 回	エネルギー代謝	講義	
第 6 回	栄養ケア・マネジメント	講義	
第 7 回	栄養状態の評価判定法、高齢者の食事	講義	
第 8 回	終講試験【45 分】	試験	
評価方法	■筆記試験 (100 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)		

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学、人体の構造と機能[3]、医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学Ⅱ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

ライフステージにおける必要な栄養摂取を学び生活習慣病の改善、重症化予防に必要な知識を習得する。

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要であることを認識できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ライフステージと栄養（1）	講義	
第 2 回	ライフステージと栄養（2）	講義	
第 3 回	ライフステージと栄養（3）	講義	
第 4 回	臨床栄養（低エネルギー食）	実習	
第 5 回	調理実習	実習	
第 6 回	臨床栄養	実習	
第 7 回	調理実習	実習	
第 8 回	終講試験	試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 3 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
薬理学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を修得する。薬物作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的知識を修得する。

目的：看護業務においてヒトへの薬物の治療的応用やその有効性・安全性を習得する。

目標：薬物を用いた疾病の治療、予防や検査を行うための基礎的な知識を習得する。

薬を用いた医療行為の円滑な実践と医療事故の防止を身につける。

◇到達目標

達成目標

- 1) 主な薬物について、期待される主な作用と作用機序、重篤な副作用について述べる事が出来る。
- 2) 薬物の適正使用のための投与上の注意点、薬の管理について述べる事が出来る。
- 3) 薬事法、麻薬、向精神薬取締法を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論第1章（薬理学とは、薬による治療）、第2章（薬力学）	講義	
第2回	総論第2章（薬物動態学、薬物相互作用）	講義	
第3回	第2章（薬効の個人差、薬物使用の有益差と危険性、薬と法律）	講義	
第4回	第3章 抗感染症薬	講義	
第5回	第4章 抗がん薬 第5章 免疫治療薬	講義	
第6回	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
第7回	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
第8回	第8章 中枢神経系に作用する薬物	講義	
第9回	第9章 心臓・血管系に作用する薬物	講義	
第10回	第10章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	
第11回	第11章 物質代謝に作用する薬物	講義	
第12回	第12章 皮膚科・眼科用薬 第13章 救急の際に使用される薬物	講義	
第13回	第14章 漢方薬 第15章 消毒薬	講義	
第14回	付章 輸液製剤・輸血剤・看護業務に必要な薬の知識	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■筆記試験（ 80%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20%） □レポート（ %） □その他（ %） ※上記を総合して評価する
------	---

教科書	系統看護学講座 『薬理学』： 医学書院 教科書にそって、パワーポイントにて講義する
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の各章のゼミナールについては確実に理解しておくこと。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
微生物学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

(1) 各種病原微生物の基礎知識とその病態、検査、感染防止対策、免疫理論を学ぶ。(自分の指の細菌培の実習も行う) (2) 過去の感染事例―事故(新聞、テレビ放送、USA の事例)・医療裁判事例を学び、看護現場で役立つ知識・技術を得る。 (3) 毎回授業の最後に授業内容に関する画像や、医療関係の画像をプレゼンテーションして理解を求める
--

◇到達目標

(1) 医療機関で発生頻度の高い感染症を重点的に感染事例から学び、就職後の看護業務に生かせる知識を得る。 (2) 免疫理論をしっかり学び Covid-19 を始めとする病原体に感染時の病態を理解し看護に生かす。 (3) 感染対策をよく学び、医療機関や介護施設で感染対策に参加・協力して活躍できる能力を養う。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	「医学史」(医学に貢献した人々)。「細菌んぼ基本」―形態、構造、機能、増殖、毒素、分類。	講義	
第 2 回	各種感染経路と発病まで(感染論)。USA-CDC と感染対策。常在細菌叢。	講義	
第 3 回	各種細菌検査と保険点数。「細菌各論」-グラム陽性球菌の病原性。グラム陰性球菌	講義	
第 4 回	食中毒と感染事故例。MRSA 感染事故と医療裁判。肺炎と高齢者。敗血症。	講義	
第 5 回	グラム陽性桿菌(病原性、食中毒、美容利用)「腸内細菌」-大腸菌と O-157 の病原性。	講義	
第 6 回	O-157 大規模食中毒感染事例。Typhoid Mary 事件から接触感染の注意点を学ぶ。	講義	
第 7 回	院内感染注意(セラチ菌、緑膿菌、薬剤耐性菌) Hib。百日咳菌、嫌気性菌	講義	
第 8 回	レジオネラ菌と 24 時間風呂、カンピロバクター菌、ヘルペス B 菌と内視鏡検査、梅毒と性病「真菌」	講義	
第 9 回	免疫理論--①血液細胞の働き②自然免疫と好中球、抗癌剤と好中球減少症の看護③獲得免疫(細胞性免疫と体液性免疫、抗原&抗体、感染時の免疫反応)	講義	
第 10 回	免疫理論を使った感染症病態の理解--①結核菌感染症と QFT、T-SPOT 試験の意味。②アレルギー反応「ウイルス総論」、「ウイルス各論」ヘルペス一族と潜伏感染	講義	
第 11 回	ヘルペス性顔面神経性麻痺、PHN の観察看護、EBV、CMV。HPV と子宮頸がん、麻疹	講義	
第 12 回	RSV の危険性、風疹と検査結果の単位、ノロウイルスと院内感染対策、ロタウイルスと脱水、経口補液	講義	
第 13 回	子供の感染症、肝炎ウイルス(HAV,HBV,HCV)の病状と血液検査結果の読み方	講義	
第 14 回	HIV と AIDS、インフルエンザウイルスと変異の危険性、Covid-19 の疾患。病状の理解	講義	
第 15 回	終講試験	試験	

令和7年度 看護学科 シラバス

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
教科書	系統看護学講座．疾病のなりたちと回復の促進（4）．微生物学 医学書院 講師作成オリジナルテキスト、その他資料配布
参考図書	1. 内科臨床誌「medicina2024-3」…「COVID-19」としての感染症アップデート 医学書院 2. 内科総合誌「Medical Practice2024-6」…最近話題の感染症ウイルスからアフターコロナ 医学書院 3. 「レジデントのための感染症診療マニュアル」2020 医学書院 4. 「Symptoms to Diagnosis-An Evidence-Based Guide」[MacGrow Hill]
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	外部講師	1	2	後期	必修

◇講義概要

疾病や障がいの基本概念を理解するための疾病の成り立ち、器官、組織も変化を通して修得し、看護師として必要な基本知識を修得します。

◇到達目標

病理学は、病気及び病的状態の本質を特に細胞レベルを中心として学ぶ教科です。それに対応するためには、特に主要疾患への本質的な理解が必要で、病理学はその根幹をなす教科です。 日々の看護の実践のために、その基礎となる代表的な疾病を中心として系統的・横断的な知識を身につけて頂きます。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	病理学とは	講義	
第 2 回	細胞・組織の損傷	講義	
第 3 回	炎症	講義	
第 4 回	免疫	講義	
第 5 回	循環障害 1	講義	
第 6 回	循環障害 2	講義	
第 7 回	代謝障害	講義	
第 8 回	先天異常 1	講義	
第 9 回	先天異常 2	講義	
第 10 回	腫瘍 1	講義	
第 11 回	腫瘍 2	講義	
第 12 回	呼吸器系の疾患	講義	
第 13 回	内分泌系の疾患	講義	
第 14 回	脳・神経系の疾患	講義	
第 15 回	終講試験 (60 分)・まとめ (30 分)	試験・まとめ	

評価方法	☒ 筆記試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座，専門基礎分野，病理学，医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学 I (循環器)	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

循環器の解剖、病態生理、症状、診断方法、検査の基礎知識を教授する。

◇到達目標

(1) 循環器疾患の特有な症状とその原因を理解し、観察、技術を習得する。
(2) 循環器疾患の検査方法治療法の基礎を習得する。
(3) 臨床の場面での思考、優先順位のつけ方を学習する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	心臓の構造・機能・病態生理・検査と治療	講義・GW	
第 2 回	疾患の理解 (弁膜症・大血管・心膜心筋疾患)・リンパ管	講義・GW	
第 3 回	疾患の理解 (心不全・血圧異常)	講義・GW	
第 4 回	疾患の理解 (不整脈)	講義・GW	
第 5 回	疾患の理解 (虚血性心疾患・肺塞栓)	講義・GW	
第 6 回	臨床の場面から見た虚血性心疾患	講義・GW	
第 7 回	臨床の場面から見た心不全	講義・GW	
第 8 回	終講試験	試験 45 分	

評価方法	☒ 筆記試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座, 専門 7, 成人看護学[3], 循環器, 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習: 上記教科書を一度読んでおくこと。 インターネットにて心臓、血管解剖図、心電図を捜しイメージ出来るようになっておくこと。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅱ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【呼吸器】 呼吸疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学ぶ。 【脳神経外科】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患)
--

◇到達目標

【呼吸器】 呼吸器疾患の特有の症状とその原因を理解し看護に活かせる知識や技術を習得する。 【脳神経外科】 脳神経疾患の看護に必要な基礎知識を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	【呼吸器】 構造と機能、病態生理	講義	
第 2 回	【呼吸器】 検査と治療	講義	
第 3 回	【呼吸器】 疾患の理解①	講義	
第 4 回	【呼吸器】 疾患の理解②	講義	
第 5 回	【呼吸器】 疾患の理解③	講義	
第 6 回	【呼吸器】 看護①	講義	
第 7 回	【呼吸器】 看護②	講義	
第 8 回	【脳神経外科】 脳神経系の機能と構造①	講義	
第 9 回	【脳神経外科】 脳神経系の機能と構造② 症状と病態生理①	講義	
第 10 回	【脳神経外科】 症状と病態生理②	講義	
第 11 回	【脳神経外科】 脳血管障害	講義	
第 12 回	【脳神経外科】 脳腫瘍	講義	
第 13 回	【脳神経外科】 頭部外傷、その他	講義	
第 14 回	【脳神経外科】 総合演習	講義	
第 15 回	終講試験	試験	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

評価方法	■試験 (100%)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学[2]，呼吸器，医学書院 系統看護学講座，専門 11，成人看護学[7]，脳・神経，医学書院
参考図書	
留意事項	【呼吸器】適宜プリントを配付する 【脳神経外科】事前学習：解剖生理学の教科書で人体構造（脳・神経）を復習しておくこと

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅲ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【消化器】 消化器疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学ぶ。この知識を看護学に反映させることが目的である。 【泌尿器】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(消化器系疾患、腎・泌尿器疾患) 泌尿器科疾患に関する概略について理解を深めるとともに看護における役割を認識する。 【血液・造血器】 血液・造血器の構成と働きをふまえ、各種血液疾患の病態と治療を学ぶ。

◇到達目標

【消化器】 消化器疾患の特有の症状とその原因を理解し、看護に活かせる知識や技術を習得する 【泌尿器】 看護師国家試験の問題が解ける 【血液・造血器】 各血液疾患の概要をイメージできるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	【消化器】 構造と機能	講義	竹澤祐一
第 2 回	【消化器】 検査と治療	講義	竹澤祐一
第 3 回	【消化器】 疾患の理解①	講義	竹澤祐一
第 4 回	【消化器】 疾患の理解②	講義	竹澤祐一
第 5 回	【消化器】 疾患の理解③	講義	竹澤祐一
第 6 回	【消化器】 看護①	講義	竹澤祐一
第 7 回	【消化器】 看護②	講義	竹澤祐一
第 8 回	【泌尿器】 教科書 第 2 章 腎・泌尿器の構造と機能 (A～E) ～第 3 章 症状とその病態生理 (A～L)	講義	中農勇
第 9 回	【泌尿器】 教科書 第 4 章 検査と治療・処置 (A～D)	講義	中農勇
第 10 回	【泌尿器】 教科書 第 4 章 検査と治療・処置 (E～F) ～第 5 章 疾患の理解 (A～I)	講義	中農勇
第 11 回	【泌尿器】 教科書 第 5 章 疾患の理解 (J～N)	講義	中農勇
第 12 回	【泌尿器】 教科書 第 5 章 疾患の理解 (O～Q)	講義	中農勇

令和 7 年度 看護学科 シラバス

第 13 回	【血液・造血器】 ○ 血液の生理と造血のしくみ ○ 検査・診断と症候、病態生理	講義	八木秀男
第 14 回	【血液・造血器】 ○ 赤血球系の異常 ○ 出血性疾患	講義	八木秀男
第 15 回	【血液・造血器】 ○ 白血球系の異常 ○ 造血器腫瘍	講義	八木秀男

裏へ続く

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	【消化器】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学【5】 医学書院 【泌尿器】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ，腎・泌尿器，成人看護学[8] 医学書院 【血液・造血器】 系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学4，血液・造血器， 医学書院
参考図書	
留意事項	【消化器】 適宜プリントを配付する 【泌尿器】 事前学習：教科書の予習、熟読 【血液・造血器】 テキスト中の病名および太字の用語を暗記しておくこと

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅳ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【代謝・内分泌】 内分泌・代謝の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学ぶ。 【運動器】 骨・筋肉・関節を中心とする運動器の構造や機能を知り、それらに起こる疾患や外傷の診断および保存的や手術的を教授する。近年の急速な少子高齢化により、運動器疾患の急増とともに、その看護の重要性が注目されている。 【免疫・アレルギー疾患】 看護業務に役立つ、免疫・アレルギー・膠原病疾患の臨床的基礎知識を理解し修得します。
--

◇到達目標

【代謝・内分泌】 内分泌・代謝の病態生理を理解し、知識を看護学に反映させることが目的である。 【運動器】 1. 運動器の構造や機能を教授する。 2. 骨・筋肉・靭帯・関節に起こる外傷や障害を習得させる。 3. とくにこの領域内でも発生頻度の高い高齢者の骨折、スポーツ障害を習得させる。 【免疫・アレルギー疾患】 看護業務実施上、必要な免疫のしくみと、アレルギー・膠原病各疾患の理解を目指します。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義	
第 2 回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解①	講義	
第 3 回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解②	講義	
第 4 回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解①	講義	
第 5 回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解②	講義	
第 6 回	【運動器】 運動器の構造と機能 運動器の診断学	講義	
第 7 回	【運動器】 骨折・脱臼	講義	
第 8 回	【運動器】 脊椎・脊椎疾患（脊椎損傷を含む）	講義	
第 9 回	【運動器】 関節疾患	講義	
第 10 回	【運動器】 スポーツ傷害・リハビリ	講義	
第 11 回	【免疫・アレルギー疾患】 免疫 総論 免疫のしくみ 検査と治療	講義	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

第 12 回	【免疫・アレルギー疾患】アレルギー 各論 気管支喘息、食物アレルギー、花粉症、アナフィラキシー、他	講義	
第 13 回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病 総論 自己免疫疾患とその機序、病態と症状、検査と治療	講義	
第 14 回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病各論Ⅰ 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、他	講義	
第 15 回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病各論Ⅱ 多発筋炎、皮膚筋炎、血管炎、患者の看護、他	講義	

評価方法	☒ 試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (20%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	【代謝・内分泌】系統看護学講座 専門分野，成人看護学[6]，内分泌・代謝，医学書院 【運動器】系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学 『10』 医学書院 【免疫・アレルギー疾患】系統看護学講座，専門分野Ⅱ，アレルギー・膠原病・感染症，医学書院
参考図書	【運動器】病気がみえる⑪ 運動器・整形外科学 標準整形外科学 【免疫・アレルギー】病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症、メディック・メディア
留意事項	【代謝・内分泌】適宜プリントを配布する 【免疫・アレルギー疾患】講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅴ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

- 【婦 人】女性の生理機能は複雑であるが、きわめて理論的に理解できるところが多いその基本的なところを知ることが他教科のホルモン作用全般の理解につながる。
- 【感染症】感染症の発症機序、診断、治療、予防について概説する
- 【眼 科】眼科主要疾患の理解
- 【歯 科】臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理由を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。（生殖器疾患、感覚器疾患、歯科・口腔系疾患）
- 【皮膚科】
皮膚の構造と機能や、皮膚疾患の病態生理と症状・検査・診断など、および
皮膚科疾患の医療の動向や最近の治療法を教授する
- 【耳鼻科】耳鼻咽喉科疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの基礎知識を教授する。

◇到達目標

- 【婦 人】
①構造と機能（女性生殖器及びホルモン作用）②検査。治療は一般のそれとどのような特殊性があるか
- 【感染症】
感染症の発症機序、診断、治療、予防についてそれぞれ看護師として説明・実践できる。
医療関連感染症とその影響および予防について説明・実践できる。
- 【眼 科】
（１）眼科外来の特徴と各種検査を通じ、疾患の症状と治療、処置について。
（２）視力障害のある患者に対する看護に役立たせる。
- 【歯 科】
歯・口腔の構造と機能や歯・口腔疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの治療法と口腔疾患の基礎知識を教授する。
歯・口腔の構造と機能・病態生理について学ばせ、歯と口腔内の治療・処置・特殊検査法など最近治療法やトピックスなどを理解させる。
歯・口腔内の症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。
- 【皮膚科】
（１）皮膚の構造と機能・病態生理について学ばせ、皮膚疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。
（２）皮膚科疾患特有な症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。
- 【耳鼻科】
耳鼻咽喉器官の病態生理について学ばせ、耳鼻咽喉疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	【婦 人】 婦人科とホルモン・女性のライフサイクル 性の決定・女性生殖器・月経のメカニズム	講義	
第 2 回	【婦 人】 月経異常、無月経、避妊法、ピル	講義	
第 3 回	【婦 人】 性感染症、子宮頸癌、子宮体癌	講義	
第 4 回	【婦 人】 子宮筋腫、子宮内膜症	講義	
第 5 回	【婦 人】 卵巣癌、絨毛性疾患、乳癌、不妊症（検査、治療）	講義	
第 6 回	【感染症】 感染症とは何か、どんな疾患があるか 感染症の発症機序について 感染症の原因となる微生物について 感染症治療における看護師の役割 耐性菌の現状と抗菌薬の適正使用	講義	
第 7 回	【感染症】 医療関連感染症とは何か、どんな感染症があるか。 医療関連感染症の防止策 標準予防策、特に手指衛生について 感染経路別予防策 職業感染症対策 針刺し・粘膜曝露事故の現状 ワクチン	講義	
第 8 回	【眼 科】 眼科の検査、主要症状・処置	講義	
第 9 回	【眼 科】 主要疾患・治療について	講義	
第 10 回	【歯 科】 歯・口腔の構造と機能 歯の異常と疾患、歯周組織の疾患	講義	
第 11 回	【歯 科】 過去国家試験問題より演習 全身の健康と歯周病とのかかわり	講義	
第 12 回	【皮膚科】 皮膚の構造と機能、病態生理を中心に皮膚科の総論	講義	
第 13 回	【皮膚科】 皮膚科疾患の理解を深めるための各論	講義	
第 14 回	【耳鼻科】 耳の疾患の症状と検査・処置	講義	
第 15 回	【耳鼻科】 鼻・咽喉頭の疾患の症状と検査・処置	講義	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

評価方法	☒ 筆記試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	【婦 人】系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学9 女性生殖器，医学書院 【感染症】系統看護学講座 15，成人看護学[11]，アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 【眼 科】系統看護学講座，専門Ⅱ，成人看護学[13]，眼，医学書院 【歯 科】系統看護学講座，専門 19，成人看護学[15]，歯・口腔，医学書院。 解剖トレーニングノート 医学教育出版社 【皮膚科】系統看護学講座，成人看護学 12，皮膚科，医学書院 【耳鼻科】系統看護学講座、専門Ⅱ、成人看護学 [14]、耳鼻咽喉、医学書院
参考図書	
留意事項	【眼 科】事前学習：眼の解剖生理を教科書で復習しておく。 【歯 科】事前学習：解剖生理の歯・口腔を復習しておく 【皮膚科】事前学習：教科書を通読しておくこと。 【耳鼻科】解剖生理の教科書で耳鼻咽喉を復習しておく

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅵ（小児）	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

小児の代表的疾患の病態、診断、治療などを教授する。 小児の代表的疾患の病態を理解させ、診断、治療を習得させる。
--

◇到達目標

小児期の疾患や障がいの症状・経過の特性、治療、看護の特殊技術を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	小児の成長・染色体異常・先天異常・新生児疾患	講 義	
第 2 回	内分泌・代謝性疾患・血液疾患	講 義	
第 3 回	感染症－ウイルスと細菌	講 義	
第 4 回	免疫・アレルギー疾患・予防接種	講 義	
第 5 回	呼吸器・循環器疾患	講 義	
第 6 回	消化器・悪性新生物・子供の事故外傷	講 義	
第 7 回	腎・泌尿器・神経・精神疾患	講 義 まとめ	
第 8 回	終講試験【45 分】	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の予習をすること

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅶ（精神）	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

看護師として必要な精神医学の知識を履修すること

◇到達目標

多様な精神疾患への理解

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	精神疾患の症状	講義	ONLINE
第 2 回	精神疾患の検査・治療	講義	ONLINE
第 3 回	統合失調症・児童精神	講義	ONLINE
第 4 回	うつ病	講義	On Demand
第 5 回	認知症	講義	On Demand
第 6 回	中毒・人格障害	講義	On Demand
第 7 回	不安障害・摂食障害・てんかん・症状精神病	講義	On Demand
第 8 回	まとめ・終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系看 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 （授業プリント）
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療概論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

この授業を通じて医療及び関連する分野/物事に視点を当て看護師として関わること、社会人として誰もが関わることを学ぶ。

◇到達目標

医療従事者に必要な基礎的知識、思考力をつける。
医療を提供する側の立場、提供される側の立場の視点で考えることができるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	①学習は何のためにするか？ 学習を効率よくする方法 ②健康とは？	講 義	
第 2 回	医学，医療，医術 歴史に沿って医学・医療を見る	講 義	
第 3 回	日本における医療システム	講 義	
第 4 回	EBM とは？	講 義	
第 5 回	終末期医療、死について学ぶ	講 義	
第 6 回	医療政策について学ぶ	講 義	
第 7 回	医療現場でのつらい思い、いやな出来事について考える	講 義	
第 8 回	終講試験	講 義	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ 0%） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座「医学概論」
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

公衆衛生学では、個々の患者だけでなく、より多くの人々の健康の保持増進、および疾病予防を支援する方略を概説する。また、生活、医療、自然、制度などの環境因子が健康に与える影響についても概説する。

◇到達目標

1. 公衆衛生の理念・概念を、公衆衛生のシステムや政策と統合し理解できる。
2. 公衆衛生の対象をとらえる視点を理解し、疾病予防や健康増進などの活動がイメージできる。
3. 地域のそれぞれの対象にアプローチできる知識を身につける。
4. 環境が健康に与える影響と、疾病を予防し健康を保持増進する方略を学ぶ。
5. 公衆衛生の歴史を学び、今後の看護職のあり方を考えることができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	公衆衛生とは（定義・対象・歴史・法的基盤）	講義	小テスト
第2回	公衆衛生のしくみ	講義	小テスト
第3回	環境と健康	講義	小テスト
第4回	集団の健康をとらえるための手法——保健統計・疫学	講義	小テスト
第5回	集団の健康をとらえるための手法——保健統計・疫学	講義	小テスト
第6回	感染症とその予防対策	講義	小テスト
第7回	母子保健	講義	小テスト
第8回	成人保健	講義	小テスト
第9回	高齢者保健	講義	小テスト
第10回	精神保健	講義	小テスト
第11回	障害者保健・難病保健・歯科保健	講義	小テスト
第12回	産業保健・学校保健	講義	小テスト
第13回	健康危機管理・災害保健・災害保健活動の実際	講義	小テスト
第14回	地方病について：山梨県でおきた日本住血吸虫症の撲滅までの闘い	講義	レポート
第15回	まとめ 終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(2) 公衆衛生 第15版（医学書院）
参考図書	
留意事項	・テキストで予習をしておくこと

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会福祉論	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

社会福祉及び社会保障について、歴史的過程と現状、行政、人々の生活及び保健、医療、福祉、看護の関わりについて学ぶ。
--

◇到達目標

社会福祉の仕組みや法体系を理解する。 社会を構成する家族、地域の機能変化と社会福祉制度の関係を理解する。 看護師に必要な社会福祉に関する知識を獲得する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	社会の変化 少子と高齢化①	講義	
第 2 回	社会の変化 少子と高齢化②	講義	
第 3 回	社会の変化 少子と高齢化③	講義	
第 4 回	家族形態の変化①	講義	
第 5 回	家族形態の変化①	講義	
第 6 回	家族力、地域力の変化①	講義	
第 7 回	家族力、地域力の変化②	講義	
第 8 回	人口構成の変化と社会保障①	講義	
第 9 回	人口構成の変化と社会保障②	講義	
第 10 回	社会を支える諸制度の成り立ち①	講義	
第 11 回	社会を支える諸制度の成り立ち②	講義	
第 12 回	戦前から戦後の社会福祉①	講義	
第 13 回	戦前から戦後の社会福祉②	講義	
第 14 回	選別的福祉から普遍的福祉へ	講義	
第 15 回	終講試験【60 分】＋まとめ【30 分】	試験・まとめ	

評価方法	☒ 筆記試験（ 70%） ☐ 小テスト（ %）	☐ 実技試験（ %） ☐ レポート（ %）	☐ 演習評価（ %） ☒ その他（授業態度点 30%）
------	---	--	---

教科書	「社会福祉」健康支援と社会保障制度③ 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストを事前に熟読してください。また新聞、ニュース等を通して福祉問題に関心を持ってください。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
関係法規	外部講師	2	2	前期	必修

◇講義概要

1. 法についての基礎的知識を学習し、看護職には様々な法規が関わっていることを理解する。
2. 看護職として業務を行う上で必要な医事、衛生、社会保障、労働などに関する法規を学ぶ。

◇到達目標

保健医療福祉に必要な法規を理解し、看護職としての法的責任を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	法の概念：法の種類、衛生法、厚生労働行政のしくみ	講義	小テスト
第2回	看護法：保助看法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	小テスト
第3回	医事法①：医療法	講義	小テスト
第4回	医事法②：医療関係資格法	講義	小テスト
第5回	医事法③：医療を支える法	講義	小テスト
第6回	保健衛生法①：地域保健法、健康増進法、精神・母子・難病に関する法	講義	小テスト
第7回	保健衛生法②：感染症に関する法	講義	小テスト
第8回	保健衛生法③：食品に関する法、環境衛生法	講義	小テスト
第9回	薬務法：薬事一般に関する法律、麻薬・毒物などの法	講義	小テスト
第10回	社会保険法：健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法、国民年金法、厚生年金保険法	講義	小テスト
第11回	福祉法（福祉の基盤・児童分野）：社会福祉法、生活保護法、児童福祉法等	講義	小テスト
第12回	福祉法（高齢分野・障害分野）：老人福祉法、認知症基本法、障害者基本法、障害者総合支援法等	講義	小テスト
第13回	労働法と社会基盤整備：労働基準法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法等	講義	小テスト
第14回	環境法：環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法	講義	レポート
第15回	まとめ 終講試験	講義・試験	

評価方法	■筆記試験（ 70 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 30 %）	■レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	医学書院 系統看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 2024年版
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション論	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

□教育目標 成人各期の特徴及びリハビリテーション看護に必要とされる知識・技術を発症から維持期に至るまでの経過を踏まえ対象となる人の身体的・心理的・社会的特徴、リハビリ看護の役割と機能を学習する。 □授業概要 リハビリテーションという視点から医療を捉えることで看護の機能の重要な側面について学ぶ。

◇到達目標

□リハビリテーションを必要とする人の特徴と看護援助を理解する。 □身体機能維持・回復を促すための看護援助及び障害者の日常生活行動を再構築するための援助方法を理解する。 □チーム医療及びリハビリチームにおける看護師の役割と機能について理解する。 □家族への援助方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーション総論・リハビリテーション看護の概論	講義	
第2回	リハビリテーション看護の対象・リハビリテーション看護に関する法制度	講義	
第3回	ステージ別リハビリテーション看護	講義	
第4回	リハビリテーション看護を展開するための基盤	講義	
第5回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 運動機能障害	講義	
第6回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 摂食嚥下障害	講義	
第7回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 排泄機能障害	講義	
第8回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 呼吸機能障害	講義	
第9回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 言語障害	講義	
第10回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 高次脳機能障害	講義	
第11回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 性機能障害・視覚障害	講義	
第12回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 聴覚障害	講義	
第13回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 事例展開	講義・その他	
第14回	これからのリハビリテーション	講義	
第15回	終講試験（60分）+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■筆記試験（ 100 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院
参考図書	
留意事項	授業を休まない。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の概念	水田 あき	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

看護とは何か、看護理論を学び看護・看護学の現状と方向性を知る。看護の機能と役割を理解する。また、人間のライフスタイルにおける健康の意義とチーム医療の場で、看護実践に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 看護の基盤である看護モデル、看護の役割と機能、看護倫理が理解できる。
2. 看護の歴史的変遷を理解できる。
3. 看護理論家にみる看護の概念を学び、自己の看護観を培うことができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備 考
第1回	序章 看護学を学ぶにあたって *看護とはなにをする職業なのか 第1章 看護とは *看護の本質 *看護の役割と機能	講義 グループワーク レポート	
第2回	第2章 看護の対象の理解	講義	
第3回	人間の暮らしの理解 基本的ニーズの理解 「看護の基本となるもの」	講義	
第4回	第3章 国民の健康状態と生活 *健康の捉え方 *国民の健康状態 *国民のライフサイクル	講義	
第5回	第4章 看護の提供者 *職業としての看護 *看護の歴史 *看護職の養成制度	講義	
第6回	看護哲学を論じた理論家による概念モデル 主な理論家の看護概念	講義 レポート	
第7回	看護哲学を論じた理論家による概念モデル 主な理論家の看護概念	グループワーク レポート	
第8回	チーム医療の中の看護の役割	グループワーク レポート	

令和7年度 看護学科 シラバス

第9回	チーム医療の中の看護の役割	グループワーク レポート	
第10回	第5章 看護における倫理 *医療をめぐる倫理 *看護実践における倫理的課題	講義	
第11回	第6章 看護の提供のしくみ *サービスとしての看護 *看護をめぐる制度と政策	講義	
第12回	医療安全と医療の質の保証	グループワーク	
第13回	第7章 広がる看護の活動領域 *国際化と看護 *災害時における看護	講義 グループワーク	
第14回	ナイチンゲールの実践に見る看護師の知識と判断力 「看護覚え書き」	グループワーク 発表	
第15回	まとめ 30分 終講試験 60分	講義 テスト	

評価方法	☒ 筆記試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ ） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院
参考図書	「看護の基本となるもの」 V.ヘンダーソン 看護協会出版会 ナイチンゲール「看護覚え書き」 湯楨ます他 現代社
留意事項	参考図書を受講前に読んでおく必要がある。 講義後は指定されたレポートを作成し（60分）次回の講義時に提出すること。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。

◇到達目標

1. 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。
3. アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。
4. 看護計画の評価の視点を理解し、説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か。看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析の視点	講義	
第5回	情報の分類・整理、解釈・分析、看護問題の抽出方法と関連図	講義・演習	
第6回	看護診断（1）看護診断とは。看護診断の記述法。	講義	
第7回	看護診断（2）解釈から看護診断をつけるまでの方法	講義	
第8回	看護診断（3）関連図を用いた看護診断の統合	講義・演習	
第9回	看護診断の優先順位と看護計画の目的と概要	講義	
第10回	看護計画の具体的な立案方法	講義・演習	
第11回	看護目標とは	講義・演習	
第12回	看護計画の発表	演習	
第13回	看護計画の発表	演習	
第14回	SOAP 記録について	演習	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

第 15 回	評価とは・終講試験	講義・試験	
--------	-----------	-------	--

評価方法	☒ 筆記試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座，専門Ⅱ基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	講義後、講義内で提示した課題に取り組む（60 分）適宜、講義前に提出を指示します。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・花田匡子・山本桂・尾崎あい	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

- 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおいて、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる
- コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる
- 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる
- 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる
- 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる
- 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツのたたみ方・ベッドメイキング	講義・演習	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義・演習	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①：コミュニケーションの意義と目的	講義・GW	花田 匡子
第6回	コミュニケーション技術②：非言語的メッセージ、傾聴技法、オープン・クエスチョン、クローズド・クエスチョン	講義・GW	花田 匡子
第7回	コミュニケーション技術③：アサーティブネス、コミュニケーション障害への対応	講義・GW	花田 匡子
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	山本 桂
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	山本 桂
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	山本 桂
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	山本 桂
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	山本 桂
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	山本 桂
第14回	安全を守る技術	講義・GW	尾崎 あい
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	花田 匡子

評価方法	☒ 筆記試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	--

令和 7 年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んてくること（予習 30 分）。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。（復習 60 分）

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	花田匡子・尾崎あい・福田裕里加	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	「活動」 基本的活動の援助（体位、体位変換）	講義	尾崎 あい
第 2 回	「姿勢・体位・活動」 体位保持、移動・移乗・移送	講義	尾崎 あい
第 3 回	「睡眠・休息」 睡眠と休息の援助	講義	尾崎 あい
第 4 回	「循環（電法）」 体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	尾崎 あい
第 5 回	「食事と栄養」 ①食事援助の基礎知識	講義	尾崎 あい
第 6 回	「食事と栄養」 ②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	尾崎 あい
第 7 回	「食事と栄養」 ③非経口栄養摂取の援助	講義	尾崎 あい
第 8 回	「清潔・衣生活」 ① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	花田 匡子
第 9 回	「清潔・衣生活」 ②病床での衣生活の援助	講義	花田 匡子
第 10 回	「清潔・衣生活」 ③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴（足浴・手浴）	講義	花田 匡子
第 11 回	「清潔・衣生活」 ④洗髪・整容	講義	花田 匡子
第 12 回	「排泄」 ①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	福田裕里加
第 13 回	「排泄」 ②導尿（一時的導尿・持続的導尿）	講義	福田裕里加
第 14 回	「排泄」 ③排便を促す援助（浣腸・摘便） ストーマケア	講義	福田裕里加
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	講義・試験	尾崎 あい

評価方法	■筆記試験（ 100 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 根拠と自己防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んでもらうこと（予習 30 分）。講義後は、該当部分の基礎・

令和 7 年度 看護学科 シラバス

	臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習 60 分)
--	---

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・花田匡子 福田裕里加・尾崎あい	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ

◇到達目標

1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる
2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる
3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる
4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸・循環を整える技術：酸素吸入療法	講義	尾崎あい
第2回	呼吸・循環を整える技術：排痰ケア・胸腔ドレナージ	講義	尾崎あい
第3回	呼吸・循環を整える技術：吸入・人工呼吸療法・末梢循環促進ケア	講義	尾崎あい
第4回	診察・検査： 検体検査	講義	矢追裕子
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	矢追裕子
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術	講義	矢追裕子
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	福田裕里加
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	福田裕里加
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	福田裕里加
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	福田裕里加
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	花田匡子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	花田匡子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	花田匡子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	花田匡子
第15回	終講試験（60分）まとめ（30分）	試験・ まとめ	福田裕里加

評価方法	☒ 試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜動画などを使用します 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅳ バイタルサイン・フィジカルアセスメント・救命救急処置・死亡時の看護 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・矢追裕子 金松佳江・尾崎あい	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

対象の健康段階に応じて、的確な観察力や判断力が速やかに看護に活かせる技術の基本的知識を学ぶ

◇到達目標

1. 生命機能の正常と異常を知り、異常の早期発見のアセスメント視点を考えることができる。
2. 生命の危機状態にある対象の特徴を知り、状況に応じた看護技術の必要性が理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	バイタルサインとは	講義	水田あき
第 2 回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍）	講義	水田あき
第 3 回	バイタルサインの観察技術（呼吸・血圧）	講義	水田あき
第 4 回	バイタルサインの観察技術（血圧・意識）	講義	水田あき
第 5 回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍・呼吸・血圧）	講義	水田あき
第 6 回	フィジカルアセスメント①フィジカルアセスメントとは	講義	矢追裕子
第 7 回	フィジカルアセスメント②腹部・消化器系・直腸・肛門	講義	尾崎あい
第 8 回	フィジカルアセスメント③筋・骨格系	講義	尾崎あい
第 9 回	フィジカルアセスメント④脳・脳神経	講義	尾崎あい
第 10 回	フィジカルアセスメント⑤肺（呼吸器系）・胸部	講義	矢追裕子
第 11 回	フィジカルアセスメント⑥心臓・循環器系	講義	矢追裕子
第 12 回	救急救命処置①一次、二次救急	講義	金松佳江
第 13 回	救急救命処置②三次救急	講義	金松佳江
第 14 回	死亡時の看護	講義	尾崎あい
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	試験・まとめ	水田あき

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んできること（予習 30 分）。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。（復習 60 分）

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本 桂・花田匡子・尾崎あい	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	「コミュニケーション技術」プレゼンテーション	演習	花田 匡子
第 2 回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	山本 桂
第 3 回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	山本 桂
第 4 回	「環境調整」ベッドメイキング	演習	矢追 裕子
第 5 回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	尾崎 あい
第 6 回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子の移乗・移送	演習	尾崎 あい
第 7 回	③ベッドからストレッチャーへの移乗・移送	演習	尾崎 あい
第 8 回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持(ポジショニング)	演習	尾崎 あい
第 9 回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	花田 匡子
第 10 回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	花田 匡子
第 11 回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	花田 匡子
第 12 回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	花田 匡子
第 13 回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	花田 匡子
第 14 回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	花田 匡子
第 15 回	「排泄」①床上排泄援助（尿器、便器）、オムツ交換	演習	矢追 裕子
第 16 回	「排泄」②一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	矢追 裕子
第 17 回	「排泄」③グリセリン浣腸、摘便 ④ストーマケアの援助	演習	矢追 裕子
第 18 回	「食事と栄養」①食事援助	演習	尾崎 あい
第 19 回	「食事と栄養」②口腔ケア・嚥下訓練	演習	尾崎 あい
第 20 回	「食事と栄養」③経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	尾崎 あい
第 21 回	「循環（電法）」温電法、冷電法、マッサージ	演習	尾崎 あい
第 22 回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子
第 23 回	「清潔援助」全身清拭と寝衣交換 技術試験	試験	花田 匡子

評価方法	□筆記試験（ %）■実技試験（ 100 %）「ベッドメイキング」で 50%、「全身清拭と寝衣交換」で各 50% □演習評価（ %）□小テスト（ %）□レポート（ %） □その他
------	---

令和 7 年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院. 基礎・臨床 看護技術 医学書院 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。 「リネン交換」「全身清拭と寝衣交換」の技術試験は各々の試験で6割以上の評価を受けることをもって合格とする。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・矢追裕子・ 花田匡子・金松佳江・ 尾崎あい・秋山理恵・中西信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護技術の基礎的理論や特質を理解し、疾病・障害をもつ対象に応じた日常生活動作の基本的な援助技術を習得する。

◇到達目標

1. 安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる。
2. 対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	バイタルサイン測定①体温・脈拍・呼吸・血圧	演習	水田あき
第 2 回	バイタルサイン測定②体温測定から報告まで	演習	水田あき
第 3 回	呼吸：吸引・吸入・酸素療法・体位ドレナージ	演習	尾崎あい
第 4 回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル①	演習	福田裕里加
第 5 回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル②	演習	福田裕里加
第 6 回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理③	演習	福田裕里加
第 7 回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理④	演習	福田裕里加
第 8 回	検査：採血（シュミレーター使用）	演習	矢追裕子
第 9 回	包帯法・創傷の管理	演習	花田匡子
第 10 回	フィジカルアセスメント①腹部・消化器系・直腸・肛門	演習	尾崎あい
第 11 回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系	演習	尾崎あい
第 12 回	フィジカルアセスメント③脳神経系	演習	尾崎あい
第 13 回	フィジカルアセスメント④心臓・循環器系	演習	矢追裕子
第 14 回	フィジカルアセスメント⑤肺（呼吸器系）・胸部	演習	矢追裕子
第 15 回	救命救急処置①一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第 16 回	救命救急処置②一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第 17 回	救命救急処置③一次救急処置（小児・乳児の心肺蘇生法）	演習	中西信之
第 18 回	救命救急処置④一次救急処置 技術試験	演習	中西信之
第 19 回	救命救急処置④止血法・気道異物除去・その他（45 分）	演習	金松佳江
第 20 回	救命救急処置⑤二次救急処置（急変時の対応・挿管介助）	演習	金松佳江
第 21 回	死亡時の看護	演習	尾崎あい
第 22 回	バイタルサイン測定③ 技術試験	実技試験	水田あき
第 23 回	バイタルサイン測定④ 技術試験	実技試験	水田あき

令和 7 年度 看護学科 シラバス

評価方法	☐ 試験 (%)	☒ 実技試験 (50 %)	☐ 演習評価 (%)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (50 %)	☐ その他 (%)

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと 事前に教科書と手順書を読み、動画を視聴しておく。事後は復習をすること。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護推論	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

実際の事例をもとに、専門基礎分野・基礎看護技術で学んだ知識・技術を統合し、
仮設→検証→問題判断→看護行為→評価の思考プロセスを学ぶ。

◇到達目標

1. 事例の状況から患者像をイメージし、患者に起こっている現象に対して複数の仮設をたてることができる
2. 仮説を立証するための、観察ができ、情報を習得し、知識をもって分析できる
3. 現象を分析し仮説を最終判断した上で、適切な看護実践ができる
4. 看護実践における倫理的態度について実践できる
5. 一連の臨床看護推論のプロセスを振り返り、自己の課題を明確にできる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	・臨床看護推論とは ・講義の流れ 。ワークグループについて ・演習について ・自己紹介 ・評価の方法と試験について ・次回の事例説明	講義	
第2回	事例検討 個人ワーク・グループワーク	講義・GW	
第3回	演習 グループごとに発表	講義・演習	
第4回	事例検討 個人ワーク・グループワーク	講義・GW	
第5回	演習 グループごとに発表	講義・演習	
第6回	事例検討 個人ワーク・グループワーク	講義・GW	
第7回	演習 グループごとに発表	講義・演習	
第8回	終講試験（筆記試験 45分）	筆記試験	

評価方法	■試験 (40 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (20 %) ■その他 (40 %)
------	--

教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	看護技術 看護過程に沿った対象看護 第5版 学研 アセスメントに自信がつく 臨床推論入門 小澤知子 メディカ出版 看護臨床推論 石松伸一 学研
留意事項	※講義・演習内容は授業進行度等によって変更する場合もある。 ※事例検討が多いので主体的に事前学習をし、学びを深めること ※提出物の期限を確実に守る ※個人ワーク・グループワークは、各々が積極的にグループ内で発言・講堂すること

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護総論	尾崎あい・外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【看護総論】看護の対象となる人々を理解し看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践に役立てるプロセスを学ぶ。 【ME 機器】ME 機器の安全使用

◇到達目標

【看護総論】1.看護の対象者となる、あらゆる年齢層の人、様々な健康レベルの人々について理解する。 2.具体的な対象者の症状のメカニズムを基盤にアセスメントの視点を学ぶ。 3.治療・検査の基礎知識と看護実践を展開する基本的な思考過程にそって看護援助を学ぶ。 【ME 機器】事故事例を通して、ME 機器使用の基本を理解する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	ライフサイクルから捉えた看護	講義	尾崎
第2回	家族の機能、生活と療養の場	講義	尾崎
第3回	健康状態の経過に基づく看護(急性期)	講義	尾崎
第4回	健康状態の経過に基づく看護(回復期)	講義	尾崎
第5回	健康状態の経過に基づく看護(慢性期)	講義	尾崎
第6回	健康状態の経過に基づく看護(終末期)	講義	尾崎
第7回	主要な症状を示す対象者への看護(呼吸、循環、栄養)	講義	尾崎
第8回	主要な症状を示す対象者への看護(排泄、活動と休息、認知と知覚)	講義	尾崎
第9回	治療・処置を受ける対象者への看護(輸液、化学療法、放射線療法)	講義	尾崎
第10回	治療・処置を受ける対象者への看護(手術、集中治療、創傷処置、検査・治療)	講義	尾崎
第11回	ME 機器と安全な使用について 除細動器について	講義	非常勤講師
第12回	患者監視装置について 心電図モニタ・パルスオキシメータ・カプノメータ・自動血圧計	講義	非常勤講師
第13回	人工呼吸器の基礎	講義	非常勤講師
第14回	医療ガス・電気設備について 実機の説明	講義 機器の実際	非常勤講師
第15回	終講試験【60分】＋まとめ【30分】	試験・まとめ	尾崎

評価方法	■試験 (100%) □実技試験 ()% □演習評価 ()% □小テスト ()% □レポート ()% □その他 ()%
------	--

教科書	系統看護学講座 別巻17 臨床看護学総論 医学書院
参考図書	
留意事項	教科書の理解

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	調べたことを発表しよう	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験/まとめ	

評価方法	☐ 筆記試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	看護研究、医学書院、2024
参考図書	
留意事項	講義前には、教科書の該当ページを読んでおくこと。 講義後はレジュメとまとめプリントを学習すること。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	山本 桂	3	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護実践を振り返り、自分の課題について必要なポイントをふまえた研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
2. 倫理的配慮を考えることができる
3. 文献検討を行い多様な考え方を学ぶことができる
4. 研究のプロセスを理解することができる
5. 作成した研究計画に沿って課題を探究し、ケーススタディを作成できる
6. 聴き手に伝わりやすい発表ができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	原著論文とは	講義	
第2回	原著論文の実際（各教員）	演習	
第3回	原著論文の実際（各教員）	演習	
第4回	文献検索とクリティーク	講義・演習	
第5回	抄録の実際	講義・演習	
第6回	効果的なスライド作成と読み原稿について	講義	
第7回	スライドと読み原稿の作成（各教員）	演習	
第8回	ケーススタディの発表（45分）	演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	看護研究、医学書院
参考図書	松本、森田編、看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、講談社、2015 高橋監修、看護学生のためのケーススタディ、メヂカルフレンド社、2016
留意事項	・提出期限は遵守すること ・「講義」の日は、教室にて受講すること ・発表の日と講評の日の両日出席をもって評価対象とする

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護論	外部講師	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

地域のなかでの暮らしや、システムについて知り、地域の人々の暮らしを支える看護について考える。
--

◇到達目標

1. 学校の所在する「地域」に目を向けて、地域の特徴を理解する。
2. 健康障害が生じて、安心して地域で暮らし続けるための課題を考える。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	人々の暮らしの理解	講義	
第 2 回	暮らしの基盤となる地域	演習 グループワーク	
第 3 回	地域包括ケアシステム及び家族	講義	
第 4 回	地域・在宅看護の対象	講義	
第 5 回	暮らしを支える看護の役割	講義	
第 6 回	学校の所在する地域を理解する	演習 グループワーク	
第 7 回	地域看護の実践の場及び多職種・関連制度	講義	
第 8 回	終講試験（45 分）	試験	

評価方法	☒ 筆記試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第 6 版
参考図書	
留意事項	授業前に該当範囲の予習し、分らない言葉を調べ学習（30 分）をする。授業後、レジメの復習をして学習内容をノートにまとめる又は講義内で指定した課題に取り組む（30 分）

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護方法論	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法を学び、地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組む。また、暮らしを支える多職種との連携・協働について考える。

◇到達目標

1. 地域・在宅看護実践において重要な視点が分かる。
2. 地域・在宅看護実践に欠かせない要素を言える。
3. 地域・在宅看護実践の場における多職種連携について考えることができる。
4. 地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組むことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	地域・在宅看護の展開	講義	
第2回	暮らしを支える看護技術	講義・GW	
第3回	地域共生社会における多職種連携・多種職チームでの協働 地域。在宅看護活動の創造のための情報収集の方法	講義・GW	
第4回	様々な職種で支える地域での暮らし 多職種との連携・協働を考える。	講義・GW	
第5回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動	演習	
第6回	地域の人へのヒアリングと考察		
第7回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動 地域でより健康に生活するため活動・仕組みを発表する	講義・GW	
第8回	筆記試験（45分）	試験	

評価方法	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の基盤 第6版
参考図書	
留意事項	地域看護論の履修必須

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護概論	山本 桂	2	1	前期	必修

◇講義概要

地域・在宅看護の対象者は、地域で暮らすすべての人々である。1人ひとりに異なる暮らしがあり、その暮らしと国際生活機能分類（ICF）モデルの構成概念である「健康」「環境」との関連について捉える意義と視点について学ぶ。また、地域で対象者の暮らしを支える看護や、対象者への支援にまつわる医療保健福祉のしくみについて学ぶ。地域で暮らす人々への看護の役割を考える機会とする。

◇到達目標

- 1.暮らしに着目することの意義を説明することができる。
- 2.地域で対象者の生きること、暮らしを支える看護について考えることができる。
- 3.暮らしが成り立つように支える制度、社会資源を説明することができる。
- 4.地域で暮らす人々への看護の役割を考えることができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	暮らしを支えるということ、暮らしをみる意義と視点	講義	課題提示 講義内で 指示
第 2 回	暮らしを理解する ①環境・文化からみた暮らしの多様さ ②健康が暮らしに与える影響	講義	
第 3 回	地域・在宅看護の対象となる人々の特徴	講義	
第 4 回	地域における暮らしを支える看護	講義	
第 5 回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義	
第 6 回	暮らしを支えるしくみ① 地域ケアシステム、フォーマル支援、インフォーマル支援	講義	
第 7 回	暮らしを支えるしくみ② 訪問看護制度など	講義	
第 8 回	終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 筆記試験（80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（20%） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院
参考図書	講義の中で、適宜紹介
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んでくること（予習 30 分）。講義後は、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。（復習 60 分）

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅰ－1	秋山 理恵	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

人口構造の変化や疫病の多様化に伴い、地域ケアシステムにおいて整備が求められ、それに応じた保健・医療・福祉の提供の実際を理解する。地域の場合において対象者の環境を整え、健康の回復に支援できる看護の方法を学ぶ。

◇到達目標

1. 在宅の多様な場において、多職種と連携し対象の臨む個別性に応じた看護提供の必要性を理解できる。
2. 在宅の看護実践において、専門性をふまえた支援と社会資源の活用、地域ネットワークづくりの役割を理解することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅看護における看護課程	講 義	
第2回	在宅看護における看護その展開方法・標準化に向けた取り組み	講 義	
第3回	暮らしの場で看護をするための心構え	講 義	
第4回	在宅看護における家族を支える看護	講 義	
第5回	在宅看護における安全を守る看護	演 習	
第6回	安全を守る看護 グループワーク	講 義	
第7回	同上 発表	講 義	
第8回	在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講 義	
第9回	在宅看護における療養環境調整	講 義	
第10回	療養環境調整の事例 モニタリングと再評価	講 義	
第11回	活動に関する在宅看護技術	講 義	
第12回	活動に関する演習	講 義	
第13回	休息に関する在宅看護技術	講 義	
第14回	総合住宅研究所の見学	講 義	
第15回	総括・終講試験	講 義・試験	

評価方法	☒ 筆記試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 河原加代子 他著 系統看護学講座 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論2 医学書院 河原加代子 他著
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論 I—2	秋山 理恵	2	1	後期	必修

◇講義概要

地域社会で生活する対象の健康回復、保持、増進に必要な在宅看護の技術や方法を習得する。
--

◇到達目標

1. 対象の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、その人らしい生活を送るために必要なマネージメントや援助の方法を理解できる。
2. 在宅における日常生活動作や認知症・終末期看護に関連するアセスメントや援助技術を理解できる。
3. 在宅での医療技術について理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 2 回	経管栄養や在宅中心静脈栄養を必要とする対象者への援助技術	講義	
第 3 回	排泄に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 4 回	膀胱留置カテーテルを必要とする対象者への援助技術	講義	
第 5 回	ストーマ・腹膜透析を必要とする対象者への援助技術	講義	
第 6 回	清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 7 回	苦痛の緩和・安全確保に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 8 回	呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 9 回	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助	講義	
第 10 回	在宅酸素療法（HOT）を必要とする療養者への援助技術	講義	
第 11 回	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）や在宅呼吸療法（HMV）の援助技術	講義	
第 12 回	創傷管理に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 13 回	与薬に関する地域・在宅看護技術	講義	
第 14 回	地域・在宅看護における認知症・終末期看護（グリーフケアを含む）	講義	
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	試験・講義	

評価方法	☒ 筆記試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 演習評価 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ その他 （ % ）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護の実践」地域・在宅看護論 2 医学書院 2024 河原加代子他
参考図書	家族看護を基盤とした地域・在宅看護論第 5 版 日本看護協会出版 2021 渡辺裕子監修 帝人在宅医療 KK のビデオ
留意事項	講義内容によりグループワークをします

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅱ	山本 桂	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

在宅で行われる健康・療養支援を看護実践の場とし、多職種と連携・協働し人々の暮らしを支えることを理解する。
ライフステージや健康レベルに応じたマネージメントの展開方法を学び、その支援を目指す。

◇到達目標

- 1.対象の時期別の支援と疾患に応じた看護実践を展開する必要性が理解できる。
- 2.対象者の価値観やニーズ尊重し、看護過程を理解し援助する判断ができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅看護における時期別の看護	講義	
第2回	在宅看護における看護実践の考え方	講義	
第3回	脳卒中・慢性閉塞性肺疾患・筋委縮性側索硬化の事例	講義	
第4回	パーキンソン病・統合失調症・認知症・がん終末期の事例	講義	
第5回	在宅看護における多職種連携・協働 マネージメント	講義	
第6回	在宅看護の看護過程事例展開 グループワーク	講義・GW	
第7回	在宅看護の看護過程事例展開 グループワーク	GW	
第8回	終講試験（45分）	試験 講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座統合分野，在宅看護論，医学書院，河原加代子他，2024
参考図書	在宅看護論―地域療養を支えるケア，メディカ出版,2024 他
留意事項	演習は、グループ事例の計画に沿った技術の実施や実習記録についての学びを深める。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

成人期の人々の発達における特徴とその課題、健康上の要求を理解し、健康に影響する環境の諸因子および疾病などを学習し、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護の方法と実践力を修得する。
--

◇到達目標

1. 成人期にある人々を発達段階、健康と生活・社会・環境の視点から理解する。
2. 成人に対する看護アプローチの基本を理解する。
3. 成人期に起こりやすい職業疾病と看護を理解する。
4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1部：成人期にある人の理解 成人と生活	講義	
第2回	生活と健康	講義	
第3回	第2部：成人への看護アプローチの基本	講義 グループワーク	
第4回			
第5回	第3部：成人の健康レベルや状態に対応した看護	講義 グループワーク	
第6回			
第7回			
第8回	終講試験（45分）	試験	

評価方法	■筆記試験（100%） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	系統看護学講座 成人看護学総論
参考図書	
留意事項	教科書を読んで予習復習をしておくこと

令和7年度看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護方法論Ⅰ（急性期） （実務経験のある教員等による授業科目）	水田あき 金松佳江	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体的・心理的・社会的に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学ぶ。また、治療に伴う患者や家族の痛み、苦痛を理解し、苦痛の緩和と危機状態からの脱するための援助のあり方を学ぶ

◇到達目標

1. 急性期にある対象の理解ができる。
2. 急性期にある患者の看護の役割と方法について理解できる。
3. 主要な急性期にある患者の看護が理解できる。
4. 重症患者のアセスメントのポイントがわかる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	急性期にある対象の特徴と概念 （急性期とは～看護援助に必要な概念） 急性期の看護活動	講義	
第2回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第3回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第4回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の種類・病態生理、循環機能のアセスメント、循環機能障害を持つ患者の看護）	講義	
第5回	急性循環器障害のある患者の看護 （代表的な循環器障害のある患者の看護：事例で考える）	講義・GW	
第6回	急性の脳神経機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な脳・神経機能障害のある患者の看護）	講義	
第7回	急性の栄養摂取・消化器機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護）	講義	
第8回	急性の内部環境機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な内部環境機能障害のある患者の看護）	講義	
第9回	急性の生体防御機能障害・感染のある患者の看護 （生体防御機能障害・感染のある患者の看護：事例で考える）	講義・GW	
第10回	急性の運動機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な運動機能障害のある患者の看護）	講義	
第11回	急性の運動機能障害のある患者の看護 （運動機能障害のある患者の看護：事例で考える）	講義・GW	
第12回	急性の排泄機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な排泄機能障害のある患者の看護） 急性の性・生殖器機能障害・感覚機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な性・生殖器機能障害のある患者の看護）	講義	
第13回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解）	演習	

令和 7 年度看護学科 シラバス

第 14 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解）	演習	
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	試験・講義	

評価方法	筆記試験（ 90 %）・演習（ 個人課題 10% ）
------	----------------------------

教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【2】 呼吸器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【3】 循環器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【4】 血液・造血器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【5】 消化器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【6】 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【7】 脳・神経 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【8】 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【9】 女性生殖器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【10】 運動器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【11】 アレルギー 膠原病 感染症
参考図書	授業の中で紹介します。
留意事項	授業は、教科書、資料を中心に行いますので、必ず持参してください 授業の内容を深めるにあたり、予習（30 分）復習（30 分）を行い講義に参加してください 事例に沿った看護演習に関しては、実習記録を使用して病態関連図を作成します 割りあてられた疾患に関する病態関連図を下調べすること（60 分）

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・金松佳江	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

セルフケアの低下状態にある成人について理解し、セルフケアの再獲得を支援し、QOL の視点を踏まえた看護を習得する。

◇到達目標

1. 成人期にある患者及びその家族の特徴や健康問題の治療過程・回復過程を理解する。
2. 健康レベルに応じた援助を行うために必要な理論と方法を理解する。
3. 成人期にある患者及び家族支援、社会資源の活用方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	成人にとってのセルフケア再獲得 セルフケアの低下した成人の理解・セルフケア再獲得モデル	講義	
第 2 回	セルフケア再獲得モデル各レベルの特徴と再獲得支援方法	講義	
第 3 回	セルフケア再獲得を必要とする成人への看護方法と社会システム	講義	
第 4 回	整形外科手術を受ける患者の看護 (TKA 術後)	講義	
第 5 回	呼吸器手術を受ける患者の看護 (肺がん術後)	講義	
第 6 回	脳・神経疾患患者の看護 (脳出血・脳梗塞)	講義	
第 7 回	疾患別看護過程の展開 ① (ゴードンによる対象の理解)	講義 個人ワーク	
第 8 回	疾患別看護過程の展開 ② (ゴードンによる対象の理解) 内容をグループで共有する	講義 グループワーク	
第 9 回	疾患別看護過程の展開 ③ (関連図の作成・看護診断) 内容をグループで共有する	講義 グループワーク	
第 10 回	疾患別看護過程の展開 ④ (看護計画) 内容をグループで共有する	講義 グループワーク	
第 11 回	疾患別看護過程の展開 ⑤ (ロールプレイ演習のグループ内準備・シナリオの作成)	グループワーク	
第 12 回	疾患別看護過程の展開 ⑥ (ロールプレイ演習のグループ内準備・シナリオの作成)	グループワーク	
第 13 回	疾患別看護過程の展開 ⑦ グループ発表 (ロールプレイ演習)	演習 (実習室) グループワーク	
第 14 回	後期授業の総まとめ	講義	
第 15 回	終講試験 (60 分)・まとめ解説 (30 分: 試験後)	試験・講義	

評価方法	☒ 試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ 課題 (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	* 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 (運動器・脳・神経・消化器・循環器・呼吸器) * メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 成人看護学②
参考図書	* ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 * 看護診断ハンドブック 第 12 版

令和7年度 看護学科 シラバス

留意事項	*疾患ごとに該当するテキストを準備してください *周手術期の看護を復習しておいてください *疾患別の事例を提示し、回復期の看護過程を展開します *ロールプレイは、後日詳細を説明します
------	---

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅲ (セルフマネジメント)	福田 裕里加	2	1	前期	必修

◇講義概要

セルフマネジメントとその概念について理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

1. 循環機能障害のある患者の看護援助を理解する。
2. 呼吸機能障害のある患者の看護援助を理解する。
3. 肝機能障害、消化・吸収障害のある患者の看護援助を理解する。
4. 人々が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	1 循環系の障害を有する人とその家族への援助 1-1) 虚血性心疾患患者の看護 (アセスメント・セルフマネジメントに向けた看護) 1-2) 心臓カテーテル検査と検査前・中・後の看護 1-3) ペースメーカーを装着する患者の看護	講義	
第2回	2 心不全の患者の看護 (アセスメント・セルフマネジメントに向けた看護) 2-1) 心臓リハビリテーションと日常生活指導 (事例提示)	講義	
第3回	2-2) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	講義・GW	
第4回	2-3) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	演習・GW	
第5回	2-6) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	演習	
第6回	3 呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助 (アセスメント・セルフマネジメントに向けた看護)	講義	
第7回	3-1) 肺がん患者の看護 検査・治療 (外科療法・化学療法・放射線療法)	講義	
第8回	3-2) 肺がん患者の看護 (アセスメント・主な症状に対する看護)	講義	
第9回	3-3) 慢性閉塞性肺疾患の患者の看護	講義	
第10回	3-4) 在宅酸素療法を行う患者の看護	講義	
第11回	4 消化器系の障害を有する人とその家族への援助 4-1) 胃・十二指腸潰瘍のある患者の看護	講義	
第12回	4-2) 潰瘍性大腸炎・クローン病のある患者の看護	講義	
第13回	4-3) 胃がんのある患者の看護	講義	
第14回	5 慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんのある患者の看護	講義	
第15回	まとめ (30 分)・終講試験 (60 分)	講義・試験	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

評価方法	■ 筆記試験 (70 %) □ 実技試験 (%) ■ 演習評価 (20 %) □ 小テスト (%) □ レポート (10 %) □ その他 (%)
------	---

教科書	＊南江堂 成人看護学 慢性期看護 ＊医学書院 系統看護学講座 成人看護学概論 ＊医学書院 系統看護学講座 成人看護学（呼吸器、循環器、消化器）
参考図書	＊メディカ出版 成人看護学③ セルフマネジメント
留意事項	＊講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。 ＊循環機能障害を持つ患者の看護では、事例を用いて理解を深めます。 ＊第 4 回、5 回の授業は事例に基づいて演習を行います。演習内容は患者指導の予定です。 ＊授業前には、該当する箇所のテキスト等を読んでおいてください。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅳ	福田 裕里加	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

- 慢性期看護の考え方とセルフマネジメントを推進する看護援助を理解する。 - 慢性期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 - 慢性期にある成人が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。 - 慢性期患者の患者指導ができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	慢性期看護とは 1 慢性疾患を有する人とその家族の理解	講義	
第 2 回	糖代謝障害を有する人とその家族への援助 1 糖尿病（身体的、心理・社会的特徴）	講義	
第 3 回	1-2) 糖尿病（セルフマネジメントとケア）	講義	
第 4 回	1-3) 糖尿病（生活指導の内容・検討） ①食事・運動療法の指導 ②合併症予防と生活指導	講義 G・W	
第 5 回	1-4) 糖尿病 患者指導発表	講義 G・W	ロールプレイ
第 6 回	腎機能障害を有する人とその家族への援助 1) 慢性腎臓病・腎不全（身体的、心理・社会的特徴）	講義	
第 7 回	2) 慢性腎臓病・腎不全 （セルフマネジメントとケア・透析患者のセルフマネジメント）	講義 G・W	
第 8 回	終講試験（45 分）	試験	

評価方法	■筆記試験（ 80 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 成人看護学（腎・泌尿器、内分泌・代謝、）医学書院 成人看護学「慢性期看護」改訂第 4 版 南江堂
参考図書	必要時提示します
留意事項	糖尿病・腎不全の病態生理を復習しておいてください

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅴ	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

ターミナル期にある対象者や家族の援助方法を習得する。

◇到達目標

1. ターミナル期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 4. ターミナル期にある人々の治療や緩和ケアを理解し、心理的支援方法を理解する。 5. ターミナル期にある対象とその家族のケアについて理解する。 4. 看取りのケアについて理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ターミナルケア・緩和ケアの考え方 全人的苦痛への理解	講義	
第 2 回	ターミナル期の身体的苦痛と症状マネジメント	講義	
第 3 回	予期悲嘆への援助とスピリチュアルペイン	講義	
第 4 回	スピリチュアルケアと援助的コミュニケーション	講義	
第 5 回	がん看護 (手術療法・放射線療法・化学療法)	講義	
第 6 回	ターミナル期にある患者の看護 事例展開	講義 グループワーク	
第 7 回	看取りのケア	講義 グループワーク	
第 8 回	終講試験 (45 分)	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	①ヌーベルヒロカワ 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ②医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 ③医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

高齢者を取り巻く環境、加齢に伴う身体・心理・社会的変化、高齢者の健康障害とそれに伴う諸問題について理解するとともに、高齢者看護の基本的視点を習得する。

◇到達目標

1. ライフサイクルからみた高齢期の特徴、高齢期の発達課題について説明できる。
2. 加齢に伴う身体面・心理面・社会面での機能・役割の変化を説明できる。
3. わが国の人口高齢化、高齢者の暮らしと健康状態について、その特徴を説明できる。
4. 高齢者に対する保健医療福祉システムについて、概要とサービス内容を理解できる。
5. 高齢者の権利擁護のための制度について理解できる。
6. 老年看護実践における基本的理念を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老いとは・老年期の定義と発達課題	講義	
第2回	高齢社会の統計から見える時代背景と現代の高齢者の保険医療福祉	講義・GW	
第3回	身体の高齢変化とアセスメント	講義	
第4回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	体験学習	
第5回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	体験学習	
第6回	高齢者の権利擁護	講義	
第7回	老年看護の成り立ち	講義	
第8回	終講試験（45分）	試験	

評価方法	☒ 試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☒ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 老年看護学概論
参考図書	
留意事項	*教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 *1回目の授業の後、高齢者へのインタビュー課題があります。毎授業前に該当部分のテキストを読んでおくこと。高齢者体験をします。 *課題に対するレポートを提出と適宜グループワークがあります。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ - 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

教育目的	加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。
授業概要	老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。

◇到達目標

1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。
2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病に関連づけて学び、高齢者の QOL を高める具体的な看護の知識・技術を理解する。
3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。
4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	高齢者の生活機能を整える看護	講 義	
第 2 回	日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講 義	
第 3 回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講 義	
第 4 回	食事・食生活と看護	講 義	
第 5 回	排泄の看護	講義・GW	
第 6 回	清潔の看護	講義・GW	
第 7 回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講 義	
第 8 回	症候のアセスメントと看護（発熱）	講 義	
第 9 回	症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講 義	
第 10 回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講 義	
第 11 回	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄・認知症）	講 義	
第 12 回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション）	講 義	
第 13 回	エンドオブライフケア	講義・GW	
第 14 回	高齢者のリスクマネジメント (高齢者と医療安全・救命救急・高齢者と災害)	講 義	
第 15 回	まとめ 終講試験	講 義	

評価方法	■筆記試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ 10 %）
------	---

教科書	系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。 系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	授業前に該当範囲の予習（テキスト学習）30 分をすること。授業後、レジメ復習、小テストのやり直し（30 分）をすること。小テストのやり直しは、適宜提出を指示する。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論 I - 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	老年看護に求められるものとは（高齢社会の現状・高齢者医療の現状）	講義	
第 2 回	高齢者の生理的特徴（老化と寿命・身体的変化）	講義	
第 3 回	老年症候群の特徴（各器官の生理的变化） うつ・せん妄	講義	
第 4 回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第 5 回	高齢者のフィジカルアセスメント（CGA とは、方法と理解）	講義	
第 6 回	高齢者のフィジカルアセスメント（方法と注意点）	講義	
第 7 回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第 8 回	高齢者に起こる脳血管疾患	講義	
第 9 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 10 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 11 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 12 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 13 回	高齢者にみられる疾患の特徴	講義	
第 14 回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第 15 回	まとめ（30 分）・終講試験（60 分）	講義・試験	

評価方法	■筆記試験（ 90% ） □実技試験（ % ） □演習評価（ % ） □小テスト（ % ） □レポート（ % ） ■その他（ 10 % ）
------	--

教科書	系統看護学講座：老年看護学（専門 2）・病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	＊教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 ＊授業の進行に合わせたまとめテストを適宜実施します。授業前に該当箇所のテキストを読む（30 分）。授業終了後レジメの復習、小テストのやり直しを実施すること。（30 分） ＊グループワークは適宜行います。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅱ	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

高齢者における看護課程の考え方を理解し、事例を用いて看護課程を展開し、高齢者を多方面から理解、把握し、看護を行うことができる能力を習得する。

◇到達目標

- (1) 高齢者における看護課程の考え方を理解する。
- (2) ゴードンによる機能的健康パターンと NANDA I を用いた老年期の看護課程の展開を理解する。
- (3) 患者事例に対して、個別またはグループで看護課程を展開できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	事例による看護課程の展開 高齢者における看護課程の概念 事例 A(COPD と認知症のある患者)B(大腿頸部骨折と糖尿病のある患者)	講義と GW 分け (GW グループワ ーク)	4・5 人 8G A4G B4G
第 2 回	老年看護課程演習 ・ G(グループ)で情報収集・解剖整理・病態・アセスメント	GW と個 人ワーク	
第 3 回	老年看護課程演習 ・ アセスメント・看護上の問題	GW	問題点 5 つ以上
第 4 回	老年看護課程演習・看護上の問題点・看護目標・看護計画と具体策 (GW で問題点・看護目標・具体策を話し合しましょう)	GW	
第 5 回	老年看護課程演習 ・ 看護計画と具体策 (具体策は、各自 1 つの問題点の具体策を考える)	GW・個人 ワーク	
第 6 回	老年看護課程演習・看護計画と対策 (40 分) ・ ロールプレイのシナリオ作成・演技の練習と準備 (50 分)	GW	
第 7 回	老年看護課程演習・具体策の実施 ・ ロールプレイイングで具体策の 1 つケアを発表 (各 G10 分で発表 する)	GW 発表	
第 8 回	まとめ・老年看護課程演習・具体策の実施したものについて (ロール プレイ) 評価・修正各自記入	個人ワー ク	

評価方法	☒ 試験 (30 %) ☒ 実技試験 (20 %) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (40 %) ☒ その他 (演習態度 10 %)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
参考図書	C 生活機能から見た老年看護過程、山田律子他、医学書院 D 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	G で考えた具体策の一つをロールプレイで表現し、評価修正をしましょう。 実際のケアを表現することで臨地実習にも役立ちます。C、D を復習しておきましょう。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

子どもと家族を中心とするケアの理念に基づき、対象の尊厳・尊重を保障することを基本に学ぶ。また、小児各期における成長・発達の特徴を理解し必要な看護について学習する。

◇到達目標

1. 現在の子どもと家族の概況や倫理的視点から、小児看護の役割と課題を学ぶ。
2. 成長・発達の基礎的知識を理解し、各期の子どもへの適切な教育および看護を学ぶ。
3. 家族の特徴と家族アセスメントの基本的知識を学習する。
4. 子どもと家族を取り巻く福祉・保健・医療の現状を学習する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	小児看護の特徴と理念、小児と家族の諸統計、小児看護における倫理	講義	
第2回	子どもの成長・発達 小児各期の成長・発達と養育および看護 ① 新生児・乳児（その1）	講義	
第3回	子どもの成長・発達 小児各期の成長・発達 ①新生児・乳児（その2）	講義	
第4回	小児各期の成長・発達と養育および看護 ①新生児・乳児（その3） ②幼児・学童（その1）	講義	
第5回	小児各期の成長・発達と養育および看護 ①幼児・学童（その2） ②思春期・青年期（その1）	講義	
第6回	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会（その1） ③思春期・青年期（その2）	講義	
第7回	子どもと家族を取り巻く社会（その2）	講義	
第8回	終講試験【45分】	試験	

評価方法	■試験（95%） □実技試験（%） □演習評価（%） □小テスト（） □レポート（%） ■その他（5%）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	国民衛生の動向(2024～2025)
留意事項	1. 授業に際しては教科書の該当箇所を読んで臨んでください。 2. 成長・発達の特徴については覚えなければならない基本的事項がたくさんあります。授業時間数が短いので子どもの成長・発達の特徴については自分で表にまとめノートを作成するようにしてください。 3. 自分の子どもの時の母子手帳を親に見せてもらい、乳幼児期の成長・発達を確認して臨んでください。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学方法論Ⅰー1	外部講師	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

小児看護学概論の内容をふまえ、病気・障害を持つ子どもと家族を取り巻く環境や生活の場、疾病の経過の特徴を理解し、子どものアセスメント、症状別看護、検査・処置の基本的知識・技術を習得する。

◇到達目標

1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護を理解する。
2. 子どものアセスメントに必要な基本的知識・技術を習得する。
3. 子どもの基本的特性を理解し、症状のアセスメントと看護を習得する。
4. 子どもに特有な検査・処置の基本的知識・技術を習得する。
5. 障害児看護および子どもの虐待の看護についての基礎的知識を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護①	講義	
第2回	第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護② 第3章 子どもにおける疾病の経過と看護①	講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護②	講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント①	講義	
第5回	第4章 子どものアセスメント②	講義	
第6回	第4章 子どものアセスメント③	講義	
第7回	第5章 症状を示す子どもの看護①	講義	
第8回	第5章 症状を示す子どもの看護②	講義	
第9回	第5章 症状を示す子どもの看護③	講義	
第10回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①	講義	
第11回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護②	講義	
第12回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護③	講義	
第13回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護④ 第7章 障害のある子どもと家族の看護①	講義	
第14回	第7章 障害のある子どもと家族の看護② 第8章 子どもの虐待と看護	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	■定期試験 (95 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト () □レポート (%) ■その他 (授業態度 5%)
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ子どもの看護 メヂカルフレンド社
留意事項	授業計画を参考に予習・復習をすること。

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学方法論 I-2	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

次代を担う子どもの成長、発達を学び、小児看護の理解を深める。
小児特有の病態や事故、外傷等を習得する。

◇到達目標

成長発達段階を学び、小児期に特有な看護実践を習得する。小児特有の疾患、病態、事故、外傷等を学び、エビデンスに基づいた看護を行う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第 1 回	・子どもと私 ・援助関係を形成する技術	講義	
第 2 回	・安心・安全な環境を調整する技術	講義・GW(グループワーク)	GW4 人 /10G
第 3 回	・日常生活の技術 1. 食事・2. 排泄・3. 清潔	演習・GW	GW4 人 /10G
第 4 回	・日常生活の技術 ・4. 与薬・5. 呼吸と循環	演習・GW	GW4 人 /10G
第 5 回	・6. 救急救命の技術	講義・演習	GW4 人 /10G
第 6 回	・症状・生体機能の管理技術・アセスメント 7. バイタルサイン・8. 身体計測・9. 検体採取・10. 検査	3 回-7 回ロールプレイング 発表	GW4 人 /10G
第 7 回	・症状・生体機能の管理技術・アセスメント バイタルサイン・身体計測・検体採取・検査	3 回-7 回ロールプレイング 発表	GW4 人 /10G
第 8 回	・安全・安楽を確保する技術	講義	
第 9 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 A. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響	講義	
第 10 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 B. 症状を示すこどもの看護	講義	
第 11 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 C. 急性期・慢性期・終末期にある子どもと家族の看護	講義	
第 12 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 D. 検査や処置、手術を受ける子どもと家族への看護	講義	
第 13 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 E. 集中治療室、ハイリスク新生児、心身障害のある子どもと家族の看護	講義	
第 14 回	・健康障害をもつ子ども・家族への看護 F. 外来における子どもと家族の看護・子どもの虐待と看護	講義	
第 15 回	終講試験(45 分)	試験	

評価方法	☒ 定期試験(60%) ☐ 実技試験(%) ☐ 演習評価(20 %) ☐ 小テスト(%) ☒ レポート(20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	専門分野・小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院) 2024. 2. 1
-----	---

令和 7 年度 看護学科 シラバス

	小児看護学②小児看護技術 (メディカ出版)2024. 1. 20
参考図書	看護の覚書・
留意事項	第3回から7回は、10 グループ(G)が 1～10 のテーマの事例を演習し、ロールプレイングで表現していただきます。Gで協力しながら行いましょう。そこから小児看護技術を学びましょう。 課題として、事前の調べ学習が時々あります。講義の際は、2-4 人のグループワーク (GW) ・発表もします。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論Ⅱ	花田 匡子	2	1	後期	必修

◇講義概要

小児の成長・発達を理解した上で、健康障害をもつ子どもと家族が健全な日常生活が送れるように、小児の特有な病態・生理を理解し看護援助と具体的援助技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 小児各期の特有な疾患と看護の知識・技術を理解する。
- (2) 小児看護師の役割を学び、小児の発達に応じた看護援助の提供方法と危険防止について理解する。
- (4) 小児期に特有な疾患を有する患者の看護を展開できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	プレパレーションとディストラクション 虐待早期発見・危険防止 チャイルド・ビジョン	講 義	
第2回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイイング)	演 習	
第3回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイイング) KYTトレーニング	演 習	
第4回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第5回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第6回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第7回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第8回	終講試験 (45 分)	試 験	

評価方法	☒ 試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1] 医学書院
参考図書	小児の発達と看護 小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 ナーシング・グラフィカ
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

母性看護の現況や動向を知り、機能と役割を理解することにより母性看護活動に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
3. 女性のライフステージ各期における健康と健康問題について理解できる。
4. リプロダクティブヘルス・ライツの概念が理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	母性とは①	講 義	
第2回	母性とは②	講 義	
第3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①	講 義	
第4回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状②	講 義	
第5回	母子を取り巻く環境①	グループワーク	
第6回	母子を取り巻く環境②	グループワーク	
第7回	グループ発表①	ディスカッション	
第8回	グループ発表②	ディスカッション	
第9回	グループ発表③	ディスカッション	
第10回	母性看護の対象理解	講 義	
第11回	女性のライフステージ各期における看護（思春期・成熟期）	講 義	
第12回	女性のライフステージ各期における看護（更年期～老年期）	講 義	
第13回	性の多様性を知る	講 義	
第14回	包括的性教育	講 義	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（グループワーク %）
------	--

教科書	系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習： 講義の前に必要な場合は提示します

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅰ-1	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

【妊婦】 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族が正常な経過をたどれるように援助を行うための基本的な能力を養う 【病態】 異常妊娠についての病態や看護のポイントについて学習する。
--

◇到達目標

【妊婦】 1) 妊娠期の母体の変化と心理・社会的特性、胎児の成長発達、マイナートラブルやハイリスク妊娠および異常について理解できる。 2) 妊娠期の看護について理解できる。 3) 妊娠期の異常時の看護について理解できる。 4) 母子関係確立および家族役割構築のための看護について理解できる。 【病態】 周産期の正常と異常が理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	妊娠期の身体的特性	講 義	
第2回	妊娠期の心理・社会的特性	講 義	
第3回	妊婦と胎児のアセスメント	講 義	
第4回	妊婦と家族の看護 (1) 食生活	講 義	
第5回	妊婦と家族の家族 (2) マイナートラブル	講 義	
第6回	妊婦への保健指導 グループワーク	グループワーク	
第7回	妊婦への保健指導 グループワーク 発表①	ディスカッション	
第8回	妊婦への保健指導 グループワーク 発表②	ディスカッション	
第9回	妊娠の異常と看護	講 義	
第10回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験+まとめ	
第11回	ハイリスク妊娠	講 義	
第12回	妊婦の異常 妊婦と胎児にみられる異常	講 義	
第13回	産婦の異常 産婦にみられる異常	講 義	
第14回	褥婦の異常 褥婦にみられる異常	講 義	
第15回	新生児の異常 新生児にみられる異常	講 義	

評価方法	☒ 筆記試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習【妊婦】講義の前に必要な場合は掲示します。 【病態】妊娠の成立、妊娠中の母児の生理について基礎知識を身につけておくこと

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 I-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

教育目的 分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。

授業概要 産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた看護援助を学ぶ。

◇到達目標

- 1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。
- 2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。
- 3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。
- 4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。
- 5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	分娩期に関する基礎知識（分娩の定義・分娩の3要素・分娩の機序）	講義・GW	矢追 裕子
第2回	分娩の経過（正常分娩の経過・分娩時の母体と胎児の変化・分娩監視装置）	講義・GW	矢追 裕子
第3回	分娩期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第4回	分娩の異常と看護（陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 胎児機能不全 遷延分娩 弛緩出血）	講義・GW	矢追 裕子
第5回	産褥期における身体的変化・心理社会的変化	講義・GW	矢追 裕子
第6回	産褥期における看護	講義・GW	矢追 裕子
第7回	産褥期に起こりうる異常とその対応（子宮復古不全 子宮内感染症 乳腺炎 血栓症 マタニティブルーズ 産後うつ） 帝王切開術前後の看護	講義・GW	矢追 裕子
第8回	新生児期の生理的変化（出生直後の呼吸・循環の変化 胎外生活への適応）	講義・GW	矢追 裕子
第9回	新生児期における看護（出生直後のケア 入院中の看護 検査）	講義・GW	矢追 裕子
第10回	新生児期の身体計測・バイタルサイン測定・沐浴	演習	矢追 裕子
第11回	新生児期の栄養と授乳・母乳育児支援	講義・GW	矢追 裕子
第12回	新生児期に起こりうる異常とその対応（分娩時外傷 高ビリルビン血症 低出生体重児 呼吸障害 低血糖 低体温 ビタミンK欠乏性出血症）	講義・GW	矢追 裕子
第13回	分娩期・産褥期・新生児期の看護のまとめ	講義・GW	矢追 裕子
第14回	実技試験（沐浴）	試験	矢追 裕子
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験+まとめ	矢追 裕子

令和 7 年度 看護学科 シラバス

評価方法	■筆記試験 (50 %)	■実技試験 (30 %)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	■レポート (20 %)	□その他 (%)

教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 医歯薬出版 根拠がわかる母性看護技術 南江堂
参考図書	メディックメディア 病気が見える vol 10 産科 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 (第3版)
留意事項	事前学習 教科書を読んでおく。家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳や自分の子どもの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。 自己学習 該当箇所の教科書(母性看護学Ⅱ 医歯薬出版)を講義までに読んでおくこと。 (第1回～第4回) 「分娩のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。 (第5回～第7回) 「産褥期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。 (第10回) 第10回までに身体計測・新生児のバイタルサイン・沐浴の具体的援助策を作成する。(手書き) (第8回～第12回) 「新生児期のまとめ」(実習の事前学習)を作成する。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、
正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	☐ 試験 (%) ☒ 実技試験 (40 %) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (40 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

精神保健看護をとりまく動向を踏まえ、精神保健看護の対象となる人々の理解と援助に必要な理論の修得を目指す。

◇到達目標

- (1) 心の健康とその考え方を理解する。
- (2) 歴史や社会の動向を踏まえ精神保健福祉と精神看護の理念を理解する。
- (3) 精神分析理論から心の問題を捉え、適応・危機・ストレス理論を理解する。
- (4) 人々のライフサイクルを通して発達課題や社会・生活環境における問題を理解する。
- (5) 精神保健医療福祉をめぐる法制度からの患者支援の方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	科目オリエンテーション 精神看護の目的と意義	講義	
第2回	精神看護の役割を理解する	講義	
第3回	精神の健康とストレスについて学ぶ	講義・演習	
第4回	心的外傷、精神障害という捉え方について学ぶ	講義・演習	
第5回	心の働きについて学ぶ	講義・演習	
第6回	心のしくみと人格の発達について学ぶ（精神力動理論）	講義・演習	
第7回	心のしくみと人格の発達について学ぶ（エリクソンの漸成的発達理論）	講義・演習	
第8回	心のしくみと人格の発達について学ぶ（その他の理論）	講義・演習	
第9回	システムとしての人間関係について学ぶ	講義・演習	
第10回	精神障害と治療の歴史について学ぶ	講義・演習	
第11回	精神保健と関係法規について学ぶ	講義・演習	
第12回	精神保健医療福祉対策とその動向について学ぶ	講義・演習	
第13回	精神医療・看護と倫理 倫理的問題についての事例検討を含む	講義 DVD 学習	
第14回	精神看護学概論で学んだことをどのように活かせるか	講義・演習	
第15回	終講試験【60分】 まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	☒ 筆記試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ 15 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 5 %） ☐ その他（ %）
教科書	系統看護学講座 精神看護の基礎（精神看護学①）医学書院
参考図書	なし
留意事項	なし

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅰ－Ⅰ	外部講師	2	1	前期	必須

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を習得する。

◇到達目標

- (1) 精神に健康の障がいをもつ対象者の治療環境を理解する。
- (2) 精神に健康の障がいをもつ対象者の理解と関わり方を理解する。
- (3) 精神保健医療福祉をめぐる法制度から患者支援の方法を理解する。

◇授業内容

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神看護学の基本 精神障害者の現状	講義	
第2回	精神の健康と不健康	講義	
第3回	心のはたらきとしくみ 人格形成	講義	
第4回	人間関係についてのシステム論	講義	
第5回	精神療法の基本	講義	
第6回	精神看護における「症状のとらえ方」の理解	講義	
第7回	精神機能の障害と精神症状	講義	
第8回	精神障害の診断と分類	講義	
第9回	精神科における治療と看護①	講義	
第10回	精神科における治療と看護②	講義	
第11回	精神科における治療と看護③	講義	
第12回	精神障害と治療の歴史	講義	
第13回	精神障害と社会学	講義	
第14回	精神障害と法制度	講義	
第15回	まとめ(30分)・終講試験(60分)	講義	

評価方法	☒ 筆記試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	精神看護の基礎(精神看護学①)、精神看護の展開(精神看護学②) 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコーダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医師薬出版
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論 1－2	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を修得する。 1. 精神障がいや精神疾患をもつ人のかかわりのなかで理解するとともに、生活を支える社会制度について理解を深める。 2. 精神看護を展開するために必要な基礎的知識を学び、精神看護の基本概念を理解する。
--

◇到達目標

(1) 精神障がいや精神疾患をもつ人をケアの人間関係のなかで理解できる。 (2) 精神障がいや精神疾患をもつ人の治療的環境と看護の役割について理解できる。 (3) 地域生活を支える社会制度・精神保健・精神看護について理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神障害をもつ人のケアの基本的な方法	講義	
第2回	人間関係をアセスメント プロセスレコードの活用	講義	
第3回	患者― 看護師関係でおきる現象のしくみと対処方法	講義	
第4回	患者にとっての回復（リカバリー）と支援	講義	
第5回	地域におけるケアの方法と支援の実践	講義	
第6回	学校・職場におけるメンタルヘルス	講義	
第7回	入院形態による精神科への入院の仕方	講義	
第8回	精神科病院での看護の課題と役割	講義	
第9回	退院に向けての支援と実践	講義	
第10回	精神科における身体ケアの実践	講義	
第11回	身体合併症とその看護	講義	
第12回	リスクマネジメント 緊急対応	講義	
第13回	リエゾン看護師の役割と看護 災害時の心のケア	講義	
第14回	看護師における感情労働とメンタルヘルス	講義	
第15回	まとめ(30分)・終講試験(60分)	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	精神看護の基礎（精神看護学①）、精神看護の展開（精神看護学②） 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医師薬出版
留意事項	

令和 7 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人に対する看護過程の展開方法を学習する。
精神科看護技術の実践を学習する。

◇到達目標

主要な精神疾患・症状を有する患者の事例を通して、対象の健康レベルをアセスメントし必要な看護ケアの方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	精神看護における看護過程 看護過程の 2 つの意味 対象者の捉え方	講義	
第 2 回	精神看護のアセスメント ゴートンのアセスメントの枠組みについて 健康逸脱の状況を見出す過程を学ぶ	講義	
第 3 回	事例を用いてアセスメントを実施する 情報を解釈するーアセスメントの視点 精神看護における看護過程	講義	
第 4 回	事例を用いてアセスメントを実施する 情報を解釈するーアセスメントの視点 精神看護における看護過程	講義	
第 5 回	アセスメント結果の統合 看護問題を推論するまでの過程と方法	意見交換	
第 6 回	看護問題の抽出 看護計画の立案	意見交換	
第 7 回	看護過程まとめ 看護の実施と評価 SOAP 記録	意見交換	
第 8 回	終講試験 (45 分)	試験	

評価方法	☒ 試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	江川隆子 監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針」 照林社 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院
参考図書	全体的視点にもとづく精神看護過程 白石喜美子 武政 奈保子 医歯薬出版会社
留意事項	講義前後に教科書や「看護の展開」で使用した資料を熟読して講義に臨むこと。

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療安全管理	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

医療・看護行為、医療機器、医薬品、患者に存在する危険を認識する能力を養い、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきことを」またその根拠を学ぶことで医療安全対策の基礎的知識を習得する。

◇到達目標

- (1) あらゆる場面・人・物に潜む危険について考えることができる。
- (2) 医療安全の視点から、看護基礎技術の根拠・理由を理解することができる。
- (3) 医療安全におけるコミュニケーションの重要性を理解することができる。
- (4) 医療安全対策の組織的な取り組みについて知ることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	医療安全を学ぶ意義 医療事故と看護業務	講義	
第2回	診療の補助の事故防止Ⅰ（業務の特性からみる） ①注射業務と自己防止	講義	
第3回	②注射業務に用いる機器での事故防止	講義	
第4回	③輸血業務と事故防止	講義	
第5回	④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養業務と事故防止	講義	
第6回	診療の補助の事故防止Ⅱ チューブ管理と事故防止	講義	
第7回	療養上の世話の事故防止 ①転倒・転落事故防止	講義	
第8回	②摂食中の窒息・嚥下事故防止 ③異食事故防止 ③入浴中の事故防止	講義	
第9回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義	
第10回	事故防止のためのコミュニケーション	講義	
第11回	看護師の労働安全（職業感染・抗がん剤・放射線被曝 他）	講義	
第12回	組織としての医療安全対策 事故報告とヒヤリ・ハット報告	講義	
第13回	システムとしての事故防止 重大事故発生時の対応	講義	
第14回	医療安全対策の国内外の潮流 医療安全教育	講義	
第15回	まとめ（30分）・終講試験（60分）	講義・試験	

評価方法	☒ 試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院
参考図書	ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版 医療安全ワークブック 川村治子 著 医学書院
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
チーム医療論	山本 桂	2	1	前期	必修

◇講義概要

保健医療福祉分野におけるチームアプローチの必要性や、各専門職における役割や機能の特徴を知り、理解を深めるとともに、連携の在り方や看護職者の役割・責任に対する考え方を明確にすることを目的とする。

◇到達目標

1. 保健医療福祉分野の各専門職者の役割や機能の特徴を説明できる。
2. チームアプローチの必要性を記述することができる。
3. チーム医療における看護職者の役割や責任を自分の言葉で説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	チーム医療の必要性とその発展	講義	
第2回	チームアプローチにおける看護師の役割と機能	講義	
第3回	チームアプローチにおける保健師の役割と機能	講義	
第4回	チームアプローチにおける助産師の役割と機能	講義	
第5回	チームアプローチにおける医師の役割と機能	講義・GW	
第6回	チームアプローチにおける言語聴覚士の役割と機能	講義	
第7回	チームアプローチにおける作業療法士の役割と機能	講義	
第8回	チームアプローチにおける理学療法士の役割と機能	講義	
第9回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割と機能	講義	
第10回	チームアプローチにおける薬剤師の役割と機能	講義	
第11回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える①	演習	
第12回	事例に基づくチームアプローチ①	演習	5 学科合同
第13回	事例に基づくチームアプローチ②	演習	5 学科合同
第14回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える②	講義	
第15回	終講試験・まとめ	試験・講義	

評価方法	■筆記試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	必要に応じて資料を配布します。
参考図書	
留意事項	演習評価はグループワークおよび発表の時間に欠席すると点数は0点とします。 事前に次の講義内容について確認し、配布資料に必要な事項を記入する (30分) 授業後に配布資料の課題をまとめる (30分)

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
国際看護	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

- (1) 国際的な視点から保険・看護の現状を学び、異文化を考慮した看護について理解する。
 (2) 看護の専門職の役割として、在日外国人の健康上の問題点と課題について理解する。

◇到達目標

1. 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、必要性を述べることができる。
2. 国際看護の実践を知り、必要な知識・技能・能力は何かを述べることができる。
3. 在日外国人の健康問題とその支援について述べることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	国際看護とは ① 行ってみたい海外 ②世界の健康問題 ③国際協力とは ④ 異文化交流 ⑤国際救援活動の基本	講義 GW	
第2回	グローバルヘルス・世界国民・地域市民に ① プライマリーヘルスケア (phc) とヘルスプロモーション (hp) ② 持続可能な開発目標 SDGs	講義 GW	
第3回	国際協力の仕組み・看護の本質は変わらない。 ① 国際機関・国際赤十字 ②国際救援の調整 ③開発協力	講義 GW	
第4回	文化を考慮した看護・看護職に求められるもの ① レイニンガー看護理論 ②在留外国人への看護	講義 GW	
第5回	国際看護活動の展開過程・開発協力と看護 ・21世紀の国際協力の課題 ① コミュニティ・アズ・パートナー・モデル PDCA と PCM	講義 GW	
第6回	・国際看護における看護師の役割 ・青年海外協力隊活動の特徴と国際協力における立ち位置	講義	
第7回	青年海外協力隊の実際 ・気候・風土・宗教について知る ・実際に取り組まれていることを知る ・国の違いを比較した国際協力活動の実際	講義 GW	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	☒ 筆記試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院 第5版
参考図書	○国際化と看護(メディカ出版) ・英語で手帳を付けてみる。石原真弓(ベレ出版) マザーテレサ 100の言葉 ヴォルフガング・バーダー編山本文子訳(女子パウロ会・精興社) 質問でつづるふしぎ発見、原爆一見えない放射線の被害(広島平和記念資料館) ○「無医村のやさしい人々」「思いきってとび出せば 青年海外協力隊 14人の手記」
留意事項	○初めまして、あなたはどんな国へ行ってみたいですか？ 将来あなたが国際看護師になったら どのような看護師になってみたいか創造しながら、問題意識をもって自主的に学びましょう。 紛争や国際問題について各自調べてみましょう。(1題) ○第7回目に関してはオンラインまたは対面にてゲストスピーカーによる講義の可能性あり

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
災害看護	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

災害医療および災害支援に際して医療従事者に必要な基礎的知識を習得する。

◇到達目標

①災害及び災害色湯の基礎を学ぶ ②災害各期における医療・看護のニーズの特徴と支援の在り方を学ぶ ③災害が人々に及ぼす社会・経済的および心理的影響と支援の在り方を学ぶ

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	1) 災害看護とは:災害看護の定義災害と倫理	講義	阿潟濱
第2回	2) 災害医療に関する法制度	講義	阿潟濱
第3回	3) 災害の種類と健康被害	講義	阿潟濱
第4回	4) 災害時の支援体制	講義	阿潟濱
第5回	5) 災害医療活動の特徴:災害サイクル	講義	阿潟濱
第6回	6) 災害初期から中長期における看護活動:初動時・医療救護所	講義	阿潟濱
第7回	7) 災害時に必要な医療・看護技術	講義	阿潟濱
第8回	8) 防災・減災マネジメント	講義	阿潟濱
第9回	9) 災害時の国際援助	講義	阿潟濱
第10回	10) 災害初期から中長期における看護活動:避難所・仮設住宅など	講義	石本
第11回	11) 被災者と支援者の心理理解と援助	講義	石本
第12回	12) 配慮を必要とする人への看護	演習	石本
第13回	13) 災害看護演習	演習	阿潟濱 石本
第14回	14) 災害看護演習	演習	阿潟濱 石本
第15回	15) 終講試験(60分)・まとめ(30分)	試験	石本

評価方法	☒ 筆記試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	ナース・グラフィック 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版
参考図書	
留意事項	

令和7年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護管理	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護のマネジメントは、ヒト・モノ・カネ・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。また看護は、医療・福祉の現場において24時間を通じて、健康に障害を持った対象者に適切な看護が提供され、医療チームの中で他職種との協働で業務を行う。看護職者が、組織の一員として、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について理解するとともに複数の対象者のマネジメントの方法を学び、総合的な知識をさらに看護管理へと発展させる統合技術を学ぶ。

◇到達目標

1. 看護職者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明ができ、看護の直面する問題と課題について理解する。
2. 医療チームの各役割が理解でき、看護管理者が担う役割や原理・原則が説明できる。
3. 看護を取り巻く諸制度を理解し、看護サービスのマネジメント能力を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護管理の基本となるもの ① 看護管理とは何か ②組織とマネージメント ② 看護管理の対象	講義	
第2回	看護師の役割とその管理 ① 看護の役割 ②業務マネージメント ③セルフマネージメント	講義 グループワーク	
第3回	看護に求められる能力 ① 組織におけるリーダーシップとマネージメント ②看護と経営	講義 グループワーク	
第4回	看護管理のスキル ① 人間関係を構築する技術 ②組織の効率性を高める技術	講義 グループワーク	
第5回	看護の質向上 ① 看護管理と倫理 ②医療安全と看護の質の評価	講義	
第6回	看護現場に影響を与える制度と法律 ① 看護と法令 ②看護と専門職機関 ③職能団体 ④看護と行政組織	講義	
第7回	看護職とキャリア ① 社会人基礎能力 ②看護職のキャリア	講義 グループワーク	
第8回	終講試験(45分)	試験	

評価方法	☒ 筆記試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 第4版第4刷
参考図書	看護の覚書
留意事項	問題意識を持って自主的に学ぶ姿勢を期待する。